

第四十五回帝國議會
衆議院

刑事訴訟法案委員會特別調查委員會會議錄(速記)第七回

會議

大正十一年三月一日午前十時五十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鷗澤 總明君

黑住 成章君 宮古啓三郎君

磯田余三郎君 禱 苗代君

鈴木富士彌君 橫山勝太郎君

出席政府委員左ノ如シ

司法次官 山内確三郎君

司法省刑事局長 林 賴三郎君

司法省監獄局長 山岡萬之助君

司法省參事官 上埜安太郎君

司法事務官 宮城長五郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

原 夫次郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

刑事訴訟法案

○鷗澤委員長 是ヨリ刑事訴訟法案小委員會ヲ開キマス、豫テ橫山君カラ御請求ニナテ居リマスル檢察事務ニ關スル訓令ガアリマシカラ、之ヲ朗讀致シマス、速記ニ取ッテ戴キタイ、表題ハ「搜查保釋責任及裁判ノ進行ニ關スル件」三十二年二月、司法省民刑甲第四十四號訓令、檢察總長、檢察長、檢察正、下斯ウアリマシテ、本文ハ「司法警察官ニ於テモ亦常ニ此意ヲ體シ專ラ人權ヲ傷ケサラシムルコトニ注意セシメ事體輕微ニシテ罪證明確ナラストル事件ニ付テハ司法警察官ニ於テ速カニ搜查ヲ了シ引致シタル被告人ハ假リニ之ヲ釋放シ之ニ關スル記錄ノミヲ送致シ徒ラニ被告人ノ自由ヲ拘束スルカ如キコトナカラシメンコトヲカムヘシ」之ガ一ツ、ソレカラ次ハ「檢察事務ニ關スル訓令ヲ司法警察官ニ數行シ且事按テ區別シテ處理スヘキ件」之ガ表題デ、三十二年二月、司法省民刑甲第四十九號、司法次官申進、檢事正宛、本文「本月二十八日民刑甲第四十四號ヲ以テ檢察事務ニ關シ當省大臣ヨリ訓令相成候處其中司法警察官ニ關スル點ニ付テハ貴官ノ意見トシテ管內司法警察官ニ對シ其地ノ事情ニ應ジ適宜訓令相成可ク且事體輕微ニシテ罪證明確ナラサルカ若クハ害惡ノ程極メテ微少ニシテ公益上處罰ノ必要ナキ事件ニ付テハ強テ起訴セサル趣旨ニ有之候ヘ共其寬嚴ノ程度ニ付テハ宜シク犯罪ノ種類犯人ノ身分其他地方ノ狀況ヲ斟酌シ其

取捨採否ニ關シテハ大ニ注意ヲ要スル儀ニ有之候殊ニ外國人ニ對スル犯罪ニ付テハ最モ慎重丁寧ヲ要シ其被害ノ保護救済等ニ付テモ充分ノ満足ヲ得セシムル様御注意相成度此段爲念申進候也」斯ウ云フノデアリマス、ソコデ今日ハ留保致シテアリマシタ二條ニ付テ……
○橫山委員 此二百八十一條ニ關聯シテ御尋ネ致シマス、第二章ニ公訴ト云フ文字ガアリマス、此二百八十一條二百八十條ノ公訴ト云フ文字、之ニ付テ承リタイ、此公訴ト云フコトニ付テハ、如何ナルモノヲ言フノデアリマス、此法文ノ全體カラハ、分ラヌヤウニ思ヒマス、ソレヲ明確ニスル條文ガアリマス、或ハ學說上ノ定テ居ルコトデアアルカ、其註解ハ與ヘナイノデアアル、斯ウ云フ意味デアリマス、ソレヲ一寸伺ヒマス
○山岡政府委員 其點ニ付キマシテハ、現行法ト異ナリマシテ、別段下ウスルトカ云フ定義ヲ與ヘテ居リマセヌ
○橫山委員 サウ致シマス、此二百八十條、二百八十一條二百八十二條等ニ公訴ト云フ字ガアリマス、ソレカラ又二百九十條ニモ公訴ノ提起ノ方法ヲ規定シテアリマス、ソレカラ二百九十二條ニ公訴提起ノ形式ヲ規定シテアリマス、二百九十三條ハ公訴上ノ內容ニ關スル規定ヲ設ケテアリマス、ソレカラ二百九十四條ハ公訴ノ取消ノ出來場合ヲ規定シテアリマス、斯ノ如ク公訴ト云フモノ、提起ハ檢事ガ行フトカ、公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ニ效力ヲ及ボサヌトカ、其他形式方法等ヲ規定シテアリマス、併シ公訴ト云フモノノ何モノタルカ分ラナイト云フト、甚ダ妙ナモノデアルト思ヒマス、併シ議論ハ別トシテ、是モ一ツ當局ノ考慮ニ訴ヘテ置キマス、ソレカラ尙ホ之ニ關聯シテ承リタイノハ、所謂訴ガナレバ裁判ヲシナイト云フ此不告不理ノ原則デアリマス、現行法ノ百八十四條ニハ、裁判所ニ於テハ、訴ヲ受ケザル事件ニ付テ裁判ヲナスベカラズト云フ法文ガアリマス、之ニ適應スル法文ハアルノデアリマス、一寸之ヲ承リタイ
○山岡政府委員 公訴ノ性質ニ付キマシテハ、當局ニ於テ考慮ヲ致サヌト云フ御意見デアリマス、一言附加ヘテ申上ゲテ置キマス、今モ構成法ノ第六條ニ「檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ノ手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ」ト云フ風ニナテ居リマス、公訴ト云フコトハ、構成法ニ於テモ既ニ其意味ヲ或場合ニハ示シテ居リマス、又御承知ノ如ク大體公訴ト云フコトハ、ソレデ分ルト云

フ考カラ、現行法ノ如ク定義ヲ致サナイデモ宜カラウト云フ、斯ウ云フ譯デアリマス、尙一ツ考慮ヲ致スコトニシマス、ソレカラ次ニ不告不理ノ原則ニ付キマシテハ、現行法ノ如ク特別ナル規定ハ致シテ居リマセヌ、併シ總テノ本法ノ立前カラ致シマシテ、現行法ノ如ク此附帶犯ノ如キモノハ全ク認メナイノデアリマス、其點ハ段々橫山委員ノ御話ノ通りニ、純粹ナル彈劾主義デアリマシテ、檢事ノ主張シナイ限リト云フモノハ、如何ナルコトモ裁判スルコトハ許サナイ、斯ウ云フ風ニ此案ハナテ居リマス
○橫山委員 只今御話ノ不告不理ノ原則ハ、無論本案ニ於テ認メラレアルヤウニ、解釋ノ上カラ申シマスレバ疑ハアリマセヌ、併シ是モ附帶犯ノ如キモノモ認メルコトナクシテ、即チ絕對ニ不告不理ノ原則ヲ留置シテアリマスナラバ、斯ノ如ク大ナル原則ハ、矢張法文ノ體裁カラ申シマシテモ、揭ゲテ置イタ方ガ將來此法案ノ解釋及運用上、其方宜カラウト思ヒマス、是モ本員ハ其意見ヲ述ベテ置キマス、ソレカラ進デ御尋ネ致シタイノハ、二百八十一條ノ不起訴ニ關スル規定デアリマス、即チ「犯人ノ性格、年齢及境遇並犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセザルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得」ト斯ウナテ居リマス、先ヅ此法文ノ意味ヲ諒解スル前ニ承テ置キタイノハ、屢々吾々耳ニスル所ニ依ルト、不起訴ト云フモノト起訴猶豫ト云フモノガアルノデアリマス、本員ノ解釋スル所ニ依レバ、不起訴ト云フコトニハ、犯罪ノ證據ガ無、若クハ罪ヲ構成セザル場合ハ、斷然之ヲ起訴シナイト云フ處分ヲ取ル、是ハ當然ノ事デアラウト思フ、起訴猶豫ト云フ場合ハ、證據ハアルケレドモ、色々ノ犯罪ノ狀況ニ依テ、起訴ヲ暫ク待ツ、斯ウ云フ場合デ、後日檢事ガ之ヲ起訴スル場合モアルト云フ意味ニ私ハ解釋致シテ居リマス、其起訴不起訴ノ御解釋ヲ願ヒマス、此二百八十一條ノ規定ハ、所謂不起訴ノ場合ニ該當スルノデアアルカ、或ハ起訴猶豫ノ場合ニ該當スルノデアアルカ、之ヲ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス
○山岡政府委員 御質問ノ點ハ、洵ニ肝要ナ御問ト存ジマス、任意主義ヲ行ヒマス以上ハ、所謂此不起訴ト云フモノト、ソレカラ起訴猶豫ト、或ハ微罪不檢舉ト云フモノトハ、之ヲ區別シナレバナラヌノデアリマス、今日法文ノ上ニ於テ明カニナテ居リマセヌケレドモ、事實ハ段々申上ゲタヤウニ、微罪不檢舉、起訴猶豫ノ制度ヲ實施シテ居ルト云ウテ宜シイ狀態ニアリノデアリマス、今日既ニ所謂不起訴ト云

フモノト、微罪不檢舉、起訴猶豫ハ、扱上ニ於テ異テ居リマス、不起訴トナタモノハ、最早之ヲ再ビ起訴スルコトハ先ツ無イ、即チ見タ上ニ於テ犯罪トシテハ證據不十分デアアル、或ハ刑事責任年齡ガ無イデアアル、斯ノ如キ犯罪トシテ見ルベキモノ無キモノハ、不起訴處分デアリマス、ソレカラ微罪處分ト申シマス、其時限リデ、斯ルモノ今後一切問題ニシナイ、斯ウ云フノデ、直ニ不起訴ノ處置ヲ致ス、起訴猶豫ノ方ニナリマス、總テ調査ヲ致シマス、訓令モアリマス、犯人ノ身分、犯罪事情、其他ニ照シマシテ、サウシテハ一定ノ期間起訴猶豫スル、斯ウ云フ風ナ扱ニナテ居リマス、尙ホ附加ヘテ申上デマス、廣イ意味デ不起訴ト申シマス、皆這入リマス、起訴シナイノデアリマスカラ、唯併シ之ヲ別チテ申シマス、御質問ノ通りニ二ツノ種別ガ今日行ハレテ居リマス、隨テ此條文ノ活用ガアル場合ニ於テハ、最モ明確ニ其區別ヲシテ扱ハナケレバナラヌヤウニナルト思ヒマス

○横山委員 尙ホ御言葉ノ意味ヲ確メテ置キマスガ、二百八十一條ノ犯人ノ性格犯罪ノ情狀等ニ依テ、公訴ヲ提起シナイト云フ場合ハ、所謂起訴猶豫ニ當ル場合デアアル、斯ウ解釋シテ宜シウゴザイマス

○山岡政府委員 其通りデアリマス

○横山委員 サウスルト意味ヲ尙ホ半面カラ確メテ置キマス不起訴ト云フ場合ハ、元來起訴スベカラザル場合デアアル、此故ニ先刻委員長カラ御朗讀ニナリマシタ當局ノ内訓ナルモノ、内ニ犯罪ノ證據ガ十分デナイ時分ニハ、不起訴ニセヨト云フ事柄ハ、是ハ當然ナ事ヲ訓示シタモノニ過ギヌデアアル、元來犯罪ヲ構成セズ、犯罪ノ證據不十分ナル場合ハ、檢事ト雖モ是ハ當然不起訴ニスベキモノデアルト云フコトノ意味ヲ、半面カラ見ルコトガ出來ルト思ヒマスガ、其解釋モ其通りデアリマス

○山岡政府委員 一寸御問ノ趣旨ガハッキリシマセヌ

○横山委員 詰リ只今ノ御説明ニ依レバ、二百八十一條ノ場合ハ、所謂起訴猶豫ノ場合ハ、犯罪ハアルノデアアルケレドモ、此二百八十一條ニ規定シテ居ル條件ノアル場合ニハ、起訴ヲシナイ起訴猶豫スル場合デアアル、即チ犯罪ハアルケレドモ、公訴ヲ提起セヌノデアアル、斯ウ云フ御説ガアリマシタガ、其通りデアルト思フ、サウスレバ尙ホ半面カラ確メテ置キタイノハ、證據ガ不十分デアルトカ、犯罪ノ成立セザル場合ニ、檢事ガ爲ス處分ハ即チ不起訴トナルノデアリマスカ、之ヲ兩方面カラ確メテ置キタイト思ヒマス

○山岡政府委員 證據不十分ノ如キ場合ニ於テハ、之ヲ不起訴トスル、斯ウ云フコトニナリマス、但シ廣イ意味デ申シマスレバ、先程申シマシヤウニ、總テ起訴ヲ提起シナイ、半面

ハ總テ不起訴トナリマス、ソレハ極ク嚴格ノ意味ニ申シマスレバ、段々御説ノ通りニ二ツノ種別致シマス、純粹ナ不起訴ト、ソレカラ起訴猶豫ト、斯ウナリマス

○横山委員 此所謂不起訴ノ場合ハ、私モ適當ナ刑事政策ノ方法デアルトシテ、從來サウ云フ事ノ行ハレテ居ルコトモ存ジテ居リマス、又吾々モ此政策ニハ賛成スルノデアリマス、サウスルト此二百八十一條ニハ犯人ノ性格トカ、年齢トカ、其他ノ事情ニ依テ起訴ヲ必要トセザルトキハ、公訴ヲ提起セザルコトヲ得ト云フ、即チ檢事ノ鑑識ニ依テ、起訴ヲ必要トセヌ場合ニハ、公訴ヲ提起スルコトヲ要セヌガ、是ハ法文ノ書方ガ甚ダ拙劣デアルト思フ、既ニ犯人ノ性格、年齢及境遇等ノ事情ニ依テ起訴ヲ必要トセヌト云フナラバ、私ハ無論公訴ヲ提起セザルコトヲ要スト書カナケレバナラヌ、必要トシナイト云フコトヲ檢事ガ自己ノ鑑識上知アデ居ルニモ拘ラズ、本案ノ適用カラ云フ、サウスレバ場合ニハ、起訴セヌコトモ出來ルシ、又起訴シテモ宜シト云フコトニナル、詰リ此法文ノ半面カラ申シマス、起訴ヲ必要トセヌ場合ニ於テモ、檢事ハ之ヲ起訴スルコトガ出來ル、斯ウ云フ條文ニナテ居リマス、デアアルカラ起訴ヲ必要トセヌ場合ニハ必ず不起訴ニスベキモノデアアル、即チ起訴猶豫ニスベキモノデアルト考ヘマス、此法文ノ書方ハ、今政府委員ノ御説明トハ、少シ變テ居ルヤウニ考ヘマス、即チ實際ノニ之ヲ觀察スレバ、既ニ犯罪人ノ性格年齡其他ノ事情ニ依テ、起訴ヲ必要トシナイデモ、檢事ハ之ヲ起訴スルコトガ出來ル、是ハ檢事ノ權能カラ云ヘバ其通りデアリマス、併ナガラ斯ウ云フ規定ヲ設ケテ、人權ノ擁護ヲスルコト云フ趣旨ヲ貫徹スル上ニ於テハ、甚ダ書方ガ拙劣デアルト思ヒマス、ソレカラ意味ハドウ云フヤウニナリマス、ソレヲ御説明ヲ願ヒマス

○山岡政府委員 是ハ此、ロヂックハ御説ノ通りニナリマス、起訴ヲ必要トセザル場合ニ於テハ、公訴ヲ提起セザルモ宜シ、提起シテモ宜イト云フ半面解釋ガ出來ル、併シサウ云フ觀方カラハ書イタノデナクシテ、所謂任意主義ヲ標榜致シマス、ノハ檢事ノ意志ニ依テ、起訴シナイデモ宜シイト云フ確信ヲ得レバ、此ニ於テ起訴ヲシナイデ宜シイ、斯ウ云フコトヲ檢事ニ權限ヲ附與シタノデアリマス、刑法ノ原則カラ單純ニ申シマスレバ、犯罪ガアル、而シテ是ガ證據ノアル場合ニ於テハ、起訴スベキモノデアルト云フコトハ、刑法カラ行ケバ當然サウナルノデアリマス、即チ罪ト刑法ガ規定シテアリマス故ニ、此處ニ刑罰權ガ發生致シマス、刑罰權ガ發生スレバ、權利ハ之ヲ行使スベキモノデアルガ故ニ、運用法ニ於テ何等ノ規定ガ無クンバ、總テ其權利ヲ行使スベキデアアル、斯ウナリマス、而シテ檢事ノ權限ハ、御承知ノ如ク權利ニシテ義務デアリマス、故ニ拋棄スルコトヲ許サヌ、ソレデ

アリマス、此處ニ二百八十一條ニ其權限ヲ實現ハシマシテ、所謂義務トシテ爲スベキ場合ハ、起訴ヲ必要トスル、此半面ニナル場合デアッテ、斯ウ云フ場合ニ於テハ其義務ヲ免除スル起訴シナイデ宜イ、斯ウ云フ觀方デアリマスカラシテ、其觀方ガ違フ譯デアリマス

○横山委員 マア御説明ノ趣旨ハ諒ト致シマスガ、併シ妙ナ事デアルト思ヒマス、既ニ檢事ガ色々ノ事情デ起訴ヲスルコトヲ必要トセヌト云フコトガアル場合ニ、サウスレバ場合ニハ起訴セヌデモ宜イ、即チ檢事ヲ子供扱ヒニスル、是ハ一種ノ美文トシテハ私ハ賛成スルケレドモ、苟モ論理的ノ法文ヲ作ッテ、サウシテ人民ノ權利利益ヲ擁護スル場合ニハ、斯ノ如キ紀行文ミタヤウナモノヲ拵ヘテ、サウシテ「ロヂック」ニ合ハナイモノ、此處ニ掲ゲルコトハ、必要ガナイノミナラズ、妙ナ解釋ガ起ル、妙ナ解釋トハ何デアアルカト云フ、從來ハ檢事ガ起訴ヲ必要トセヌニモ拘ラズ、所謂合法主義ニ依テ、必ズ起訴シテ居タト云フ事實ガアル、將來ニ於テ檢事ノ智識ガ低下シテ、起訴ヲ必要トセヌニモ拘ラズ、尙ホ合法主義ニ依テ必ズ起訴スルノ虞ガアルト云フコトノ懸念ガナクテハ、必要ガナイ條文デアルト思ヒマス、既ニ檢事ガ自己ノ鑑識ニ依リ、取調ノ結果、起訴ヲ必要トセヌト云ヘバ、公訴ヲ提起セヌデモ宜イト云フコトハ、當然ノ事デアリマス、デアアルカラ當局ノ誠意ノアル所ハ諒ト致シマス、是ハ非常ニ拙劣ナル文章ノ書方デアルト斯ウ思ヒマス、意見ハ後ニ申シマス、ソレカラ進ンデ尙ホ御尋ヲ致シタイノハ、斯ウ云フコトガ檢事ガ不起訴ニシマス、或ハ起訴猶豫ニスル、ソレハ只今委員長カラ御朗讀ニナタ内訓ノ趣旨モアリマス、カラシテ、檢事ガ今日行ハレテ居ル所ノ刑事政策ノ立場ニ立テ、サウシテ或程度マデ事件ヲ起訴猶豫ニスルコト云フ自由裁量ノ權能ヲ有ツコトハ其事態其モノニハ異論ハアリマセヌケレドモ、併ナガラ檢事ノ搜查ガ秘密デアッテ、茲ニ檢事ノ專横ガ起ル、實際問題カラ之ヲ申上ゲルト、大浦子爵ノ不起訴ニ對シテ、其理由ハ檢事總長カラ説明セラレテ居リマシテ、或程度迄ハ之ヲ了解シテ居リマス、今日依然トシテ政友會ノ諸君カラ、議場若クハ議場外ニ於テ、之ニ關聯シタル事件ガ起ルト、大浦事件ノ不起訴ハドウシタノカト云フコトガ必ズ出テ來ル、數人ノ議員ヲ賣收シ、數方圓ノ金ヲ費シテ起訴サレヌト云フコトデアルト云フ、或程度迄之ニ疑惑ヲ有ツノハ、已ムヲ得ヌ事デアリマス、ソレカラ鳩山君ノ事件、之ニ付テ檢事局ニ於テ不起訴ニスルコトガアラウト思フガ、鳩山君ヲ處分シテ、罰金ノ五圓十圓取ツデモ、別ニ痛クモ痒クモナイ、將來有望ナル政治家デアリマスカラ、コトナ事デ傷ケルコトハ、個人トシテハ賛成シマセヌ、併ナガラ一般ノ國民ノ側カラ見レバ、檢事ガ秘密ノ間ニヤッテ、之ヲ

起訴スルト云フコトニ付テ非常ニ長引ク、私ガ若シ檢事デ
アッタラ、アンナ事ハ五分カ十分デ形付ケル、斯ウ云フ事ガ疑
惑ヲ有ツコトニナリマス、左様デアリマスカラ、此法文ハ或ル
意味ニ於テ檢事ノ專横ト云フコトヲ助長スル條文デアルト
謂ハネバナラヌ、書方ガ誠ニ美文ニ等シモノデアッテ、法文
ノ體裁ヲ爲シテ居リマセヌ、只今ノ御説明ノ趣旨デアルトス
レバ、名刀デアル、振廻セバ危險ノ正宗ノ名刀デアル、ソコデ
檢事ガ秘密ニ此名刀ヲ振廻スト、最も危險デアッテ、趣旨ニ
ハ同意致シマスルガ、之ニ對シテ告訴發シタル者、其
他ノ利害關係人ガ、之ニ對シテ救済スルコトノ方法ヲ持ッ
タケレバ不都合デアアル、或事件ヲ裁判所ニ移ラヌ前ニ、檢事
ガ秘密ニ間カラ間ノ裡ニ葬ルト云フコトガアルカラ、サウ云
フ場合ニハ、被害者デアルトカ、告發者デアルトカ、サウ云
フテ、相當ナル救済ノ方法ヲ有タシメルノガ、告訴發シタル
手ニ間カラ間ニ葬ルト云フコトデハ、認メラレタル所ノ權利
ノ實行ヲ見ルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ次第デアリマスカラ、
告訴權ヲ認メ、告發ノ權利ヲ許シタル以上ハ、之ニ對シテ二
百八十一條ノ規定ニ依ッテ、犯罪アルニモ拘ラズ、起訴猶豫
ヲ致シタル場合ニ、相當ナル途ヲ開クノ順序デアアル、不起
訴ノ場合、犯罪ノ構成シナイ場合、一二ノ證據ガアッテモ、
檢事ガ證據不十分ナリト云フ場合、又人民ノ方デハ證據
ガ十分デアルト云フ見解ノ異ッテ居ル時ニ、之ニ對シテ不服
ノ出來ナイト云フコトハ、人民ノ權利ヲ保護スル途デアナイ
思ヒマス、故ニ二百八十一條ノ規定ニ依ッテ、檢事ガ起訴
猶豫ヲ致シタル場合ニ於テモ、亦犯罪ノ構成セザル場合ニ
於テモ、亦證據不十分デ不起訴ヲ爲シタル場合ニ於テモ、
相當ナル不服ノ途ヲ設ケナケレバ、權衡ガ取レヌト思ヒマ
ス、但シ不起訴ノ場合、或ハ起訴猶豫ノ場合ニ、抗告ト云
フコトヲ提起スルケレドモ、併シハ唯裁判所構成法ノ規
定ニ依ッテ、檢事カ上官ノ命令ニ從フコトヲ行政監督ノ意
味カラ、當該檢事ノ爲シタル處分ニ對シテ、一種ノ救済ト
云フコトニ過ギヌノデアッテ、實際上效果ノ薄弱ナルコトハ、
御經驗ノ通りデアリマス、檢事ガ起訴猶豫ヲ致シタル時ニ、抗
告ヲシテ未ダ採用セラレタコトハナイ、是ハ當然デ、上官下官
ノ行政官ノヤルコトデアアルカラ、止ヲ得ヌ事デアアルガ、斯ウ云
フ手續イ、法律上ノ效果ヲ發生スルコトナク、實際上從來
何等ノ效力モナカッタ―裁判所構成法ニ認メラレテ居ル、
抗告ト云フモノニ信賴シテ、人民ノ告訴發シタル權利、若ク
ハ利害關係人ノ權利ヲ擁護スルト云フコトハ、覺束ヌト思
ヒマスカラ、法律ニ明確ニ利害關係人ノ救済方法ヲ認メル
ノガ必要デアラウト思ヒマス、現ニ之ヲ要望致シテ居ルト云
フコトハ、或ル程度マデ在野法曹ノ輿論ト謂ッテモ差支ナ

イ、是ニ付テハ司法省ニ於テモ議論ノアツタコト、思ヒマス
ガ、此關係ヲ詳細ニ承ハリタイ
○山岡政府委員 御質問ノ點ハ、此公訴提起ト云フコト
ニ關スル非常ニ重大ナ問題デアリマス、研究ト云フコトニ
付テハ、深クヤラナケレバナラヌ、隨テ此問題ニ付テハ、在來
ヨリ考慮ヲ致シタル問題デアリマス、此問題ニ付テハ、今日迄
ノ構成法ニ依ル司法行政手續ヲ以テ、抗告ニ依テ不服
ノ途ヲ與ヘテ、最終ニ檢事總長ヲ經テ、司法大臣ニ如ク手
續ヲ満足スル、斯ウ云フ立場デアリマス、只今御説ノ如ク
刑事訴訟法ニハ何等ノ規定ガ致シマシナイノデアリマス、公
訴ハ檢事之ヲ行フト云フ二百八十條ノ規定ニ關係ヲ有ツ
ノデアリマシテ、二百八十條ニ於テ公訴ノ提起ハ、檢事ガ行
フト云フ原則ヲ極メルト云フ、檢事以外ノ所迄不服ヲ持
出スト云フコトハ、適當デナイコトナリマス、特ニ此二百八
十一條ヲ規定致シマシテ、即チ檢事ノ確信ヲ以テ起訴不
起訴ヲ決スベキモノデアアル、又起訴猶豫ヲ決スベキモノデア
ルト致シマス、一層其意味ガ強マッテ參リマス、ノデアリ
マス、故ニ檢事ノ上官デアアル司法大臣ヲ以テ最終ノ不服ノ
途トスルノ方法ハナイノデアリマス、ソレデ此主義ヲ取ラズニ
二百八十條ニ原則トシテ檢事之ヲ行フ、他ノ者モ公訴ノ
提起ガ出來ルト云フコトニナレバ、勿論他ノ途ヲ開クコトガ
出來マス、ノデアリマス、サウナレバ二百八十一條ノ如キ公益上ノ見
地カラ起訴ヲ猶豫スルト云フコトハ、全ク空文ニ終ッテ仕舞
フノデアリマス、檢事ガ公益ノ見地カラ見テ、是ハ起訴ノ必
要ガナイト考ヘテ、國民或ハ被害者カラ起訴ヲスルト云フコ
トニナレバ、公訴ノ提起ハ支離滅裂ニ訴追ヲスルト云フコト
ニナリマス、カラコデサウ云フ風ニ國民ノ方面カラ見レバ、
起訴スベキモノハ起訴スル英吉利ノ如クニ制度ヲ立テルノ
モ、是ハ一ツノ制度デアリマス、サウ云フ風ノ制度ヲ立テルコ
トハ、決シテ絕對ニ惡イモノデアルト云フコトハ言ヒマセヌ、
併シ我國ノ刑事訴訟ノ制度ハ、御承知ノ如ク長キ來歴ヲ
有シテ、檢事ニ限ッテ公訴權ヲ行使スルト云フ、公益上ノ見
地カラシテ、起訴不起訴ノ公訴事項ノ問題ヲ考ヘテ居リマ
ス、其立場カラ行クト、裁判ノ事情ニ依ッテ不服ヲ言ヘルト
云フ途ニ依ッテ満足スル外ハナイノデアリマス、根本問
題ヨリ更ニ論ジマスレバ、檢事ガ向ホ訴追ヲ許スベキ關係ノ
制度ニ致シマス、ヤウニナリマスレバ、更ニ別ノ考デ制度ノ
立テヤウモアラウト思ヒマス、此立案ニ於テ檢事ニ公訴ノ專
權ヲ許セバ、不服ノ途ヲ構成法ノ規定ヲ以テ十分ナリトシ
ナケレバナラヌ譯デアリマス、スノ如クニ止メタ次第デア
リマス

○横山委員 私人申スノハ、二百八十一條ノ規定ハ、前ノ
二百八十條ノ公訴ハ、檢事ガ行フト云フ原則ニ關聯スルノ
デアリマス、詰リ公訴ヲ提起スル方法トシテ、當事者直接ノ
彈劾主義ヲ採ルカ、檢事ト云フ機關ヲ設ケテ檢事ガ彈劾ヲ
スルト云フ主義ニナルカト云フコトハ、總テノ彈劾ト云フ根
本主義ニ關スル問題デアリマス、併ナガラ是ハ學說ノ上デ
ハ今日既ニ相當考慮セラレタ問題デアッテ、根本義ノ疑義
ヲ要シナイ、即チ檢事ト云フ彈劾機關ヲ設ケテ、檢事ノ活動
ヲ促進シテ、サウシテ國家ニ代ッテ檢事ガ公訴ヲ行フト云フ、檢
事彈劾說、此根本義ニハ異論ハアリマセヌカラ、二百八十
條ニ付テハ質問シカッタ譯デアリマス、ケレドモ、今申上ゲ
タヤウニ檢事彈劾主義ヲ採ル以上ハ、檢事ノ活動ヲ促ス方
法ニ於テ、人民ノ側ニ於テ不滿ノ場合、檢事彈劾主義
ニ從ッテ、告訴發シタルノ方法ノ制限ヲシテ、不當ニ之ヲ起
訴シタル場合ハ、之ヲ裁判機關ニ依テ救済ノ途ヲ與ヘ、起
訴セザル場合ニハ、先刻來屢、申上ゲル通り、檢事ノ專權
ニ依ッテ自由ニ出來ル、檢事ガ絕對ニ起訴セシムルカ、或ハ
之ヲ防遏スルカ、一ツノ目的デ、一面カラ申シマス、告
訴發シタルノ事ハ殆ド檢事ノ行動ヲ見レバ、人民ノ側ニ
於テハ訴訟行為ノ權利トシテ居ルニモ拘ラズ、一旦出シタ
ラハ、檢事ノ自由勝手ニ之ヲ一任スル、人民ハ何モ不服ノ
申立ガ出來ナイト云フ事デハ、訴訟法ノ主義ガ貫カレズニ
終ルコトニナルカラ、此人民ノ側ノ權利ヲ擁護スルト云フ、此
公益ノ途ヲ與ヘルノガ必要デアルト、斯ウ私ハ申スノデアリ
マス、此點ニ於テ檢事ノ側ノ方ニ若クハ司法省ノ側ノ方ニ
於テ、サウ云フ規定ヲ設ケルト云フコトハ、從來ノ司法行政
ノ關係ニ基ク公益デアナイ場合ヲ法律ヲ設ケテ、檢事ノ訴訟
法上ノ公益權ヲ認メタ所デ餘リ價値ハナイ、サウスレバ吾々
ハ檢事ガ不起訴ヲ裁判官ノ前ニ提起シテ、裁判上ノ決定
ヲ與ヘルト云フコトニナル、其理由デアアル、又、ソレヨリ外ニ方
法ハナイ、サウスルト檢事ノ今ノ訴訟法上ノ規定ハ、裁判官
ノ合法主義ヲ排スル虞ガアル、檢事ハ或程度マデ任意主義
デアアルガ、檢事ノ獨立ト云フコトハ何所マデモ合法主義ヲ
立ツルニアル、或モノハ必ズ檢事ガ起訴シナケレバナラヌト
云フ、斯ウ云フ合法主義ヲ破壞スル議論ガ現ニアルケレド
モ、是ハ御考慮願ハナケレバナラヌ、ハ、裁判官ガ罪ノアル
ニモ拘ラズ執行猶豫ヲスル、刑ノ減刑ヲスル、斯ウ云フ場合
ハ、一ツノ合法主義ノ非常ナル弊害デアアル、此故ニ現行法
ニ於テモ、此ノ法案ニ於テモ、裁判官ノ合法主義ハ決シテ
絕對的ノモノデアナイ、立法者自ラ合法主義ヲ破壞シテ、此
合法主義ヲ認メテ居ル、今日ノ場合ニ裁判官ガ刑ノ斟酌
ヲスル、或ハ刑ノ執行猶豫ヲスルト云フコトハ、當然ナ事デ
アリマス、斯ウ云フ事ハ合法主義ノ原則カラ言ヘバ非常
ニ忌ムベキ事デ、現ニ現行法ノ百七十五條ニ依レバ、豫審
ニ於テ被告人ガ免訴ノ言渡ヲ受ケ、其決定確定シタル時ハ

罪名ノ變更アルモ、同一ノ事件ニ付キ再ビ訴ヲ受クルコトナカルベシトアル、斯ウ云フ事ニテ居ル、併ナガラ新ナル證憑アルトキハ此限ニアラズトアル、此所マデハ合法主義ニ現行法モ觸レテ居リマセヌ、此百七十五條ノ一項ハ新ナル證憑アルトキハ、檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出し、裁判所ニ於テハ其起訴ヲ許スベキヤ否ヤ決定スベシト云フ、斯ウ云フ規定デアリマス、是ハ司法當局ガ合法主義ヲ破壞シテ、起訴前ニ當テ裁判官ガ新ナル證據アルカドウカト云フ事ヲ認定シテ、起訴前一度起訴スル要ナシト云フコトノ決定ヲ與ヘテモ、尙且ツ新ナル證據ガアルトシテ、再ビ裁判官ノ判斷ヲ請フト云フコトハ、現行法ニアルデアリマス、此斟酌ヲスルト云フ事モ、一ツノ合法主義ニ對スル變例デアルト云フコトハ勿論デアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラシテ、檢事ガ不起訴ノ決定ヲシテ、而カモ不當ノ決定デアルト云フ場合ニハ、檢事ハ訴追ヲ必要トスル、之ニ對シテ裁判機關ノ救済ヲ求メルト云フコトハ、合法主義ノ例外ニハナルケレドモ、人權ノ保護上、檢事ノ手續ヲ防遏スル上ニ於テ已ムヲ得ズスルデアリマスガ、其點ニ觸レル御説明ヲ願ヒタ

○山岡政府委員 御意見ノ點ハ、私ノ極ク大キナ見地カラ見マスルト、異存ノナイ、否ナ我檢事制度ヲ以テ訴追ノコトガ最上ノモノトモ考ヘテ居ラナイ、御承知ノ如ク大陸ニ於テモ佛蘭西ガ檢事制度ノ極端ノ所デアリマスガ、其所ニ於テモ被害者ガ豫審判事ニ告訴ヲ致シマスルト、事件ガ遅レルデアリマス、其他ノ國ニ於キマシテモ、檢事以外ニ依テ公訴ノ提起ト云フコトヲ認メラレテ居ル、殊ニ英米ノ如キハ、是ガ國民ノ訴デアリマスガ、是ヲ最上ノモノト云フコトハ大キナ眼カラ見レバ、サウハ申サレマセヌガ、併シ今日マデノ我國ノ制度トシテ、斯ノ如ク發達シテ居リマシテ、此立案者トシテノ當局ノ見地カラ申上ゲルト云フコトハ、何處マデモ檢事ノ方デ政策ヲ行ヒ、裁判官ハ正義公正デアルト云フケレドモ、只今御説明ノアリマシタヤウニ、法ニ從テ處置以外ニ出ナイ、斯ウ云フコトハ肝要ト思フデアリマス、是ガ根本問題デス、是ガ動イテ來レバ、勿論種々ナル方法ガアリマスコトハ只今御説明ノヤウニ、裁判所ニ向テ其不起訴ノ適當ナリヤ否ヤ判斷サセルト云フコトモ一案デアリマス、ソレモ現ニ外國ノ制度ニ例ガアル、根本ガ動イテ來レバ、ソレハ如何ヤウニモ考ヘルコトガ出來マスガ、此案ノ見地カラ申セバ、裁判所ハ何處マデモ法ニ從テ終始公正ナル立場、即チ司法官ノ本當ノ特色ヲ現ハスデアリマス、檢事ハ政策ヲ行フ、檢事ガ假リニ政策ヲ行フ、斯ウ致シマス其結果ハ甚ダ大ナルモノガアル、只今御説明ノ如ク、不起訴ニシテ闇カラ闇ニ葬レバ、世間ハ疑惑ノ念ヲ懷ク、是ハ害ガアル、此

害ヲ救済センガ爲ニ、政策ヲ移シテ裁判所デ致シマスルト、今度ハ裁判所ガ又疑惑ノ中心トナル、今日檢事ノ非難ト云フモノハ、是ハ檢事ノ非難ダケアルカラ、吾々ハマダ忍ベルガ若シモ之ガ裁判所ニ對スル非難ノ聲トナタナラバ、遂ニ國家國法ノ權威ト云フモノハ、根本カラ崩レテ收拾スベカラザルモノトナル、檢事ニ對スル非難ト云フモノハ、ソレ程大シタモノデハナイガ、考ヘテ見レバ大キイ——大キイハ大キイガ、ソレハ一ツノ行政官ニ他ナラヌデ、其處置ノ適宜デアタト云フコトハ、考ヘラレルノハ當リ前ノ話デアル、併シナガラ申スマデモナク檢事ト云フモノハ、司法官ト云フモノハ、一部分デアリマスカラ、勿論公正デナケレバナラヌデアリマスガ、近來ノ如ク刑事政策ト云フモノハ、喧シクナッテ參リマス、其政策ニ依ル行ヒト云フモノハ、檢事ノ行ヒト云フモノハ、非難ノ中心トナルコトハ申スマデモナイコトデ、以前ノ合法主義デアッタ時代ニハ、檢事ヲ非難スベキモノハナイ、檢事ハ裁判官デ公正ナモノデアッタト云フコトハ、吾々モ常ニ言ッテ居リマシタ、此時代ノ非難ノ中心ハ警察官デアル、ソレデ當時ノ人權蹂躪問題ト云ヘバ、內務省ニ限テ居タ、ソレガ今日檢事ニ移テ來タノハ、即チ三十一年以來政策ガ行ハレタカラ、其結果非難ハ檢事ニ移タノデアラ、之ガ今度裁判所ニ移テ來ルト、裁判所ニ對スル非難ノ聲ハ、檢事程大キクハナイ、獨立官廳デアリマスカラ、檢事程非難ハ大キクナイ、信ジマスガ、其裁判官ニ對スル疑惑ノ念慮ヲ有ツト云フコトハ、絕對ニ避ケ得ナイコト、思ヒマス、勿論全クサウ云フ制度ガ外ニナイト云フコトハナイノデアリマシテ、是モ御承知デアリマセウガ、亞米利加ニ於ケル宣告猶豫ノ制度ニ於テハ、裁判所ガ事案ヲ調ベマシテ、是ハ未ダ裁判シテ、刑ニ處スルニハ、犯人ノ性格年齡其他ノ事情ニ於テ適當デナイト云フコトヲ認メタ時分ニハ、被告人ニ裁判所ハ宣告ヲシナイト云フ、斯ウ云フ風ナ方法ヤルノデアリマス、是ハ先程御説明ノ如ク、執行猶豫ノ制度ト同ジク、政策ノ意味ガ這入テ居ルノデアリマス、併シ執行猶豫ノ如キハ、事實ヲ認定シテ、刑ヲ宣告シテソレカラ檢事ガ必要ナリトスレバ請求致シマス、此裁判所ハ職權ヲ以テ何年間被告人ヲ猶豫スルト云ラノ單純ナル政策ヲ行ハタト云フ譯ニハ參ラヌ、矢張法律ノ規定ニ從テ、法ヲ運用シタト云フコトハ出來マセヌ、何處マデモ裁判ト云フモノハ、法ノ運用ノ範圍ニ止メタイト云フコトハ、當局トシテハ實際ニ大變希望スル所デアリマス、裁判所ハドウカ此政策ノ中心ニ這入ッデ、疑惑ノ的ニナラヌヤウニ致シタイト思ヒマス

○橫山委員 此裁判所ニ對シテ控告ノ途ヲ開ケバ、裁判所モ亦非難ノ的ニナルカモ知レマセヌ、ソレナラバ過日ノ本委員會ニ於テ、二百五十五條乃至二百五十七條ノ審議ヲスル際ニ、其意味ノ事ヲ申上ゲタ、即チ檢事ガ裁判官ヲ使用シテ、サウシテ起訴前ニ犯罪ノ搜查、被疑者ノ勾留、證人ノ訊問等ヲ致シタ場合ニ、二百五十七條ノ規定ニ依ッテ公訴提起前ノ場合ニハ、檢事ハ被疑者ヲ釋放スルコトニナラザル場合ニハ、檢事ガ干與スルノミナラズ、進ンデ裁判所ガ干與シテ居タ場合ニハ、此被疑者ノ側カラシテ、ドウモ公訴ノ提起前ニ人民ニ對シテ斯ウ云フ不都合ナ裁判手續ヲヤタト云フコトノ非難ヲ、檢事ニ對シテ致スト、同様ニ裁判所ニ對シテモ致ス、是ハ司法權ノ獨立ノ爲メ、司法權ノ威信ノ爲メ、宥恕スベキコトデナイト申上ゲタケレドモ、私ノ說ヲ御採用ニナラヌデアアルカラ、今二百八十八條、二百八十一條ノ審議ニ方ッテ、裁判所ニシテ移セバ、裁判所ガ非難ノ的ニナルデアラウト仰シヤルコトハ、一ツノ是ハ眞理デアリマセウ、私モソレハ賛成デアル、私ハ此非難ヲ構ハヌト云フ司法省ガ議論ヲナサルト云フコトハ、議論ガ矛盾シテ居ル、二百五十五條乃至二百五十七條ノ場合ニハ其處ガアル、其處ヲ看過シテ此二百五十五條乃至二百五十七條ノ規定ヲ認メルト云フノハ、二百八十一條ノ公訴ノ件ニ付テモ、之ヲ猶豫スルト云フコトハ矛盾デアル、而シテ尙ホ起訴猶豫ノ場合モ政策デアナイト云フ議論デアリマスガ、ソレハ成程刑ノ言渡ヲ爲シ、ソレカラ猶豫ノ期間モ決メルデアリマスカラ、大部分合法主義ニ依ッテ法律ヲ適用スルト云フコトハ論ハアリマセヌケレドモ、併ナガラ斯ノ如キ犯罪ヲ爲シタル者ニ刑ノ言渡ヲ爲スニハ、一定ノ時間之ガ刑ノ執行ヲ猶豫スル、其間ニ更ニ罪ヲ犯サナカッタラバ、刑ノ言渡ハ其效力ヲ失ッテシマウト云フ條件ニ依テ判決スル、今度罪ヲ犯シテ居ルケレドモ、斯ウ云フ事情デアルカラシテ之ヲ執行猶豫スルト云フ、斯ウ云フデアリマスカラ、是ハ二百八十一條ノ規定ニ基キ、檢事ハ年齡性格其他ノ事情ニ依ッテ、公訴ヲ提起セザルコトガ出來ルト云フコト、毫モ違ハナイ、刑事政策ヲ施ス程度ガ甚ダ稀薄デアル、刑事政策ヲ行フト云フコトハ、事實動カスベカラザル事實デアル、而シテ更ニ進ンデ御尋ネ致シタイノハ、二百八十一條ノ規定ニ依ッテ、檢事ガ不起訴ニ決定シタル場合ニ、或ハ起訴猶豫ヲシタ場合ニ、從來不起訴ノ記錄ハ全然秘密デアルト稱シテ、裁判所ノ取寄ニモ應ジナイ取扱手續ニナッテ居リマスガ、將來モ矢張左様ナ手續ヲ執ルカドウカト云フコト、之ニ關聯シテ質問スルノハ、書類ノ公表顧未及其理由ヲ公表スルカドウカ、社會一般ニ公表セザルマデモ、告訴告發ヲ爲シタル者、其他利害關係人ニハ、斯ウ云フ理由ニ依ッテ起訴猶豫スル、或ハ不起訴ヲスルト云フコトガ明示セラル、ノデアアルカ、ドウカ之ヲ承リタ

○山岡政府委員 二百五十五條ヲ御引用ニナリマシテノ

點デアリマシタガ、是ハ其際ニモ申上ダタノデアリマスガ、是ハ矢張裁判所ノ活動ト致シマシテハ、法律ニ從ヒマシテ、拘留ノ條件ガ備ハテ居レバ勾留致シマス、證人ヲ訊問致シマス條件ガ備ハテ居レバ訊問致シマス、矢張法律ニ從テ、行動以外ニ出ナイ、何處迄モ法律ニ從テ、法律ガ許ス範圍デナクテハ裁判官ハ活動シナイ、而シテ活動スル場合ニ於テハ、全ク獨立自由ニヤル、斯ウ云フコトハ、一言申上ゲテ置キタイノデアリマス、ソレカラ次ニ執行猶豫ノ問題ノ御意見デアリマスガ、ソレハ御述ベニナク事ニ付テハ、私異存ハナイ、唯ソレハ要スルニ程度ノ問題ニナルノデアリマス、最後ニ起訴猶豫ノ書類ノ問題デアリマスガ、是ハ在來起訴書類ハ秘密書類トシテ、裁判所ノ取寄セニ應ジナカシコトハ御説明ノ通り、サウ云フコトガ多イ方デアラウト思フ、併シ中ニハ應ズル裁判所モナイデハナイノデアリマス、併ナガラ在來ノデアリマスト云フコト、所謂罪トナラナイ、或ハ證據ガ無イト云フ程度ノモノデアリマスカラシテ、之ヲ出スト云フコトハ甚ダ困難ナ事情ガアル、此二百八十一條ガ出來マシレバ、今日以後ハ現今ノ程度デナクシテ、最早公ナル法律ノ取扱ニナル、今迄ハ訓令ヲ以テ公ニスルト云フ事サヘ、司法省トシテハ出來ナイノデアリマシタガ、モウ既ニ長イ間事實ヲ證明サレテ、何人モ知ラナイ者ハナイ、故ニ此訓令ガ公ニマルコトノ出來ル程度ニアリマス、デ二百八十一條ガ出來マシレバ、法律上ノ規定ニナリマス、起訴猶豫ヲシタ書類ガ、公ニ出來ナイト云フ理由モ甚ダ薄弱ニナリマス、即チ豫審ヲ經テ書類ト何モ變リハナイ、ソレデ豫審ノ書類ト同様ニ、起訴猶豫ノ決定ヲシタ書類モ取寄セテ宜イト云フ同様にナリマス、ソコデ起訴猶豫ト云フコトガ、十分理由ヲ附シテ決定致シタルト云フコトヲ示ス、ソレヲ只今如何ナル制度ヲ作テ如何ニ取扱フ命ズルカト云フコトハ、明言致スコトハ出來マセヌ

○横山委員 サウスルト今御説明ノ理由ニ依ルト、モウ公表セザルヲ得ナイコトニナル、即チ是迄ハ起訴猶豫ノ政策ト云フモノガ、秘密ノ間ニ檢事局内部ニ行ハレテ居タ、國民ハ關知シナカク、併ナガラ國民ノ協賛ヲ經テ其政策ガ公然行ハレル、ドウ云フ理由ニ依テ不起訴ニシタモノデアルト云フコトヲ發表スル道理ニナルカラ、發表ヲ拒ム理由ハ無クナテ仕舞ッタ、併シ明言スルコトハ出來ヌト云フコトハ、ソレハ已ムヲ得マセヌガ、併ナガラ成ベク此規定ニ基イテ、斯ウ云フ自由裁量ガ出來ルト云フコトニシマスレバ、公表シテ戴ク方ガ宜カラウト思フ、公表スルト云フコトハ、判檢事ニ示スト云フ程度デモ、少クトモ裁判所ノ取寄ニ應ズルコトニシテ貫ヒタイ、希望ヲ述ベテ置キマス、而シテ之ニ關聯シテ尙ホ承デ置キタイノハ、合法主義ノ原則ヲ確定スル起訴猶豫ノ決定ニ對スル抗告ノ途ヲ裁判所ニ對シテ開クト云フコト

ハ不可ナリト云フ意見ハ、諒承致シマシタ、私ハ贊成致シマセヌガ、根據ヲ承リタイ、直近ノ上級裁判所ニ對シテ檢事ニ對シテ抗告ヲスルト云フコトハ、合法主義ノ規定ニハ反シナイ、合法主義ノ精神ニハ反シナイ、實際ニ於テハ司法行政ノ方法トシテ、區裁判所ガ合法ノ規定ニ依テヤッテ居リマスカラ、之ヲ法律ニ當然ノ權利トシテ實行スルコトガ出來ルト云フコトニ於テハ、御異存ガアルカドウカ、即チ直近ノ上級裁判所ノ訴訟法上ノ權利トシテ、抗告ノ途ヲ開クノガ自然ノ結果トシテ二百八十一條ノ場合ニ相當ナル決定其他ノ方式ニ依テ其理由ヲ其說明ヲ當事者ヲシテ開知セシムルノ方法ヲ採ラナクバナラヌ、即チ此點ニ付テノ御考ヲ承デ置キマス

〔速記中止〕

○山岡政府委員 ソレカラ次ニ、此檢事ノ手ニ抗告ヲスルコト云フコトヲ刑事訴訟法ニ示シテ、正確ニ致シタイト云フ御意見、此點ハ法規ノ問題トシテ、今日順次檢事正ヨリ檢事長ニ、ソレカラ檢事總長ニ、大臣ニ、斯ウ云フ風ニ抗告ノ途ガアッテ、事實行テ居ル、而シテ此根據ハ構成法ニアリマスルカラ、之ヲ法規トシテ此案ニ移スト云フコトニナツテモ、サウエライ問題ガアルベキ筈ハ私ハナイト思フ、唯如何ナル法文ヲ何レニ嵌メルカト云フコトニナレバ、其案ハ成案ガ出來マシタ上ニ於テ、更ニ考慮致シマス、特ニ御承知ヲ願ヒタイ

○横山委員 尙ホ進ンデ御尋致シタイノハ、今ノ理由ヲ當事者ニ示スト云フコトノ希望ノ根據ヲ述ベテ置キマス、ソレハ理由ガ不明デアルガ故ニ、檢事ニ對シテ人民ハ不平ヲ訴ヘル、理由ガ不明デアルガ故ニ、裁判所構成法ノ規定ニ基イテ、司法行政法ノ監督ニ因リ抗告ト云フモノガ非常ニ殖エル、是ハ餘計ハアリマスマイガ、理由ガ分ラヌ爲ニ、控訴院ニ行キ、大審院ニ行キ、ソレカラ司法省ニ行クト云フコトニナルノデアラカラ、或ル程度マデ當事者ニ斯ウ云フ譯デ不起訴ニスル、斯ウ云フ譯デ起訴猶豫ニスルト云フ理由ヲ全部示シタ方ガ宜カラウト思フ、御承知ノ通り、今日ハ葉書ヲ以テ不起訴ノ通知ヲシタリシテ居ル、其葉書モ實際ニ於テハ來ルコトモ來ナイコトモアル、餘程時日ヲ經過シテカラ、ソレガ起訴ニナツテ居ルト云フコトモアル、此處ハ餘程考慮ヲ要スル點デアラウト思フ、ソレカラ尙ホ進ンデ承リタイノハ、二百八十一條ハ先刻來申上ゲル通りニ、檢事ニ非常ナル權利ヲ認メルコトニナリマスルガ、之ニ關シテ何カ内訓トカ細則トカ云フモノヲ設ケテ、二百八十一條ノ運用ニ關スル或程度マデノ方針ヲ各檢事ニ對シテ御示シナル譯デアルカ、或ハ一般人民ニ對シテ公表サレタル譯デアルカ、其點ヲ承リタイ

○山岡政府委員 是ハ訓令ニナリマスルノデ、今成案ヲ得テ居ラレマセヌカラシテ、總テ公表出來ルモノデアルカ如何

デアルカ、是モ只今明答ヲ致シ兼ル次第デアリマス、ソレカラ序デニ尙ホ疑ニ御述ベニナク不起訴ノ理由ヲ明ニシナケレバナラヌ、其道トシテ此案ニ法文ヲ設ケルト云フ御趣旨ノヤウニ承知致シマシタ、ソレデ疑ニ申上ゲマシタ通り、善ク成案ヲ拜見シタ上デナイト云フコト、茲ニ如何ナル法規ヲ致スカト云フコトヲ申上ゲ兼ルト云フコトヲ申シタ次第デアリマス、根本問題トシテ此司法行政ニヨル抗告ヲ許スト云フ形ハソレダケノ話デアリマス、是ハ種々ナル條件ヲ附ケマスルト云フト、更ニ成案ヲ得テ考慮シナケレバナラヌコトニナリマスカラ、ドウカ左様御承知ヲ願デ置キマス

○横山委員

此條文ニ對スル最後ニ、私ハ意見ヲ述ベテ、又質問ニナルカモ知レマセヌガ、司法當局ノ意見ヲ承デ置キタイト思ヒマスガ、從來ノ檢事局ニ於ケル起訴猶豫ノ方針ハ二百八十一條ニ規定シテアル方針ト大體違ハヌト考ヘル、此條文ト云フモノハ、ドナラニデモ解釋ノ出來ル、ドノヤウニデモ運用ガ出來ル、殆ド諛説球ノヤウナモノデ、口デ吹ケバ大キナル、空氣ヲ出セバ少サナル、正宗ノ名刀ノ如キ危險ナ條項ヲ運用スル檢事其人ヲ得ナカク時分ニハ、甚ダ危險ナ條文デアルコトハ申上ゲモナイ、ソコデ私ハ大綱ヲ示シテ、此檢事ノ運用ヲ誤ラシメザル爲ニ、相當ナル細目ヲシテ訓令ニシテ、内訓ヲ發スル必要ガアルト申上ゲタルデアリマス、譬ヘテ見マスレバ茲ニ一人ノ婦人ガアッテ萬引ヲシタ、屢ニハ經驗スルコトデアアルガ、ドウ云フ人ガ萬引ヲスルカト云フト、學者ノ說ニ據ルト、月經時デアルトカ、精神ニ異狀ノアル場合ガ多イト云フヤウナコトデアアル、サウ云フ理由ノアル場合ハ別トシマシテ、相當責任能力ノアル婦人ガ、冷靜ニ深思熟慮ノ結果、吳服店其他ノ場所ニ於テ萬引ヲ致シタ場合ニ、相當ノ方針ヲ示サナケレバ、檢事デモ、吾々デモ起訴猶豫ヲスベキモノデアルカ否ヤト云フ斷定ハ容易ニ行フコトガ出來ナイ、即チ貧乏デアッテ、生活ニ困ルカラシテ萬引ヲ致シタ、其他ノ事情ハ別トシテ、斯ウ云フ事件ガ一ツアル、ソレカラ一方ニハ富豪、或ハ貴族ノ令閨若クハ令嬢ト云フモノガ萬引ヲスル、傳フル所ニ依レバ、大キナ吳服店デハ、兼々貴族ノ妻若トカ富豪ノ妻若ガ萬引ヲスルノヲ知ッテ居テ、月末ニ勸定ヲ以テ行ッテ取ルト云フヤウナコトヲ聞イテ、居ル、要スルニ萬引ガ非常ニ多イ、而シテ此三越デアルトカ、白木屋デアルトカ云フヤウナケバ、一シイ方面ニ依ッテ營業スル者ガ、漸次増加スルニ從ッテ益々増加スル、ソコデ富豪貴族ノ妻若令嬢ガ萬引ヲシタ、是ハ生活ニ毫モ關係ハナイ、一方デ貧乏ノ婦人ガヤッテ場合ニハ、生活ニ關係ガアル、是ハ如何カ犯罪ノ情狀ノ中ニ這入ル、サウスルト吾々ノ側カラ申シマスルト、婦人ノ萬引ヲシタコトハ、別ニ家庭ノ狀況ガ極メテ悲惨ノ有様デアッテ、全ク衣食若クハ夫ノ藥餌料ノ爲

ニヤッテノデアル、ドウカ許シテ貰ヒタイ、是ハ相當ナル要求デアル、ソレカラ又貴族富豪ノ方ノ立場カラ申シマス、元來家庭ニハ是程ノ資産ガアル、是程ノ地位ヲ持ッテ居ルノデアル、一時ノ出来心デヤッテノデアルカラシテ、將來サウ云フヤウナ危險ガナイカラ許シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ希望モ出テ、其希望モ決シテ無下ニ排斥スベキモノデナイ、ソコデ檢事ガ困ルノデアリマス、貧乏ノ婦人ガヤッタ場合モ、金持ノ婦人ガヤッタ場合モ、不起訴ニシナケレバナラス、檢事ハ到底公訴ヲ實行スル上ニ於テ完全ナル働キヲスルコトが出来ヌ、ソレカラ又年齢性格——年齢ノ上カラ申シマス、十五六ノ青年ガヤッテ、十七八ノ令嬢ガ萬引ヲヤッタ、泥棒ヲシタト云フヤウナ場合ニ、是ハ將來相當ナル家ニ嫁グ者デ、相當ナ女學校ヲ卒業シテ、相當ナ家庭ニ居ルモノデアル、或ハ青年デアル、ドウカ一時見逃シテ呉レ、ソレカラ茲ニ老人ガアル、老先短イ老人デアル、モウ命且タニ迫ッテ居ルノダ、是モドウカ一ツ許シテ貰ヒタイト云フコトニナルト、中間ニ立ッテ檢事ハ御婆サンモ娘モ許サレナケレバナラス、殆ト萬引スル者ヲ起訴スル場合ガナイ、或ハ毆打デモサウデアル、此立派ナ紳士ガシタガ、ドウモ將來ヤル氣遣ヒハナイ、一時ノ感激デヤッテノダカラ、ドウカ許シテ貰ヒタイ、是モ無下ニ排斥スルコトハ出来ナイ、又車夫デアルカ馬丁デアルカ云フヤウナ比較的下層ノ階級ノ人ガ、一杯飲ンダ勢デ履、喧嘩ヲヤッテ居ル、是モ下層社會ノ事デアルカラ、許シテ貰ヒタイ、檢事ハ之モ許サナケレバナラス、檢事モ屢、ヤッテ居ル、現ニ檢事ガ毆打セラレタト云フコトモ知ッテ居ル、宇都宮裁判所デ祭日ニ檢事ト判事ガ大喧嘩ヲシテ、新ラシイ羽織ヲ破ッテシマッタト云フコトモ私ハ知ッテ居ル、裁判官——檢事ガ將來ヤル氣遣ヒハナイカラト云フコトデ、矢張——不起訴ニナル、斯ウ云フ場合ヲ想像シテ、吾々ガ現實ニ二百八十一條ノ規定ヲ適用スルコト云フ場合ニ、千差萬別、悉ク困難ナル事情ニ當該檢事ガ遭遇スルコトハ申スマデモナイ、此檢事ニ人オヲ集メルコトハ必要デアルガ、併ナガラ大體ノ方針ハ如何ナル場合ニ犯罪ガアッテハ起訴猶豫シテ宜イノデアルト云フコトノ大綱ヲケハ示シテ置カナイト云フト、ドウモ長野ノ裁判所デ不起訴ニシ、東京デハ起訴サレテ、宇都宮デハ官吏ガ起訴サレテ居ルト云フコトニナッテ來テ、到底此起訴權ノ行使ト云フ事ノ統一ヲ圖ルコトガ出来ナイ、デ其行使ノ上ニ甚シキ不統一ヲ來シ、延イテ民人ノ疑惑ヲ深カラシメ延イテ司法權ノ獨立ヲ害スルコトニナルト思ヒマス、既ニ斯ノ如キ事ヲ秘密主義カラ公表主義ニ改メ、裏面カラ公開主義ニ改メルナラバ、大體ノ據ルベキ方針ヲ定ムルト云フコトハ、人民ノ側カラ言フデモ、檢事ノ側カラ言フデモ、必要デハナカラウカト思ヒマス、此意味ニ於テ私ハ相當ナル細則、訓令ト云フモノヲ設

ケラレテ、能フベクンバ檢事ノミナク、一般人民ノ知ルコトガ出来ルヤウニシテ貰ヒタイト云フ半ハ希望デアリマスカラ、御意見ガアレバ承リマス、尙ソレデ私ハ此條項ニ對シテノ質問ヲヤメマス

○山岡政府委員 當局トシテ御意見ヲ承ッテ置キマス

○鶴澤委員長 之ニ付テ私ハ最後ニ一寸一點質問致シテ置キタイト思フノデアリマス、第二百八十一條ノ原則ヲ採用スルコトハ、餘程大キナ關係ノアルモノデアラウト思フノデアリマス、ソコデ此問題ニナルノハ、公訴ヲ提起セザル原則ノ基ク所ハ何レニ在ルカ、之ヲ申シテ見マシレバ、國家ノ刑罰ニ對スル運用ノ根本原理デアラウト思フノデアリマス、即チ此裁判必罰ト云フモノヲ以テ刑罰運用ノ根本原理トハ見ナイ、犯人ノ個性デアルトカ、或ハ犯罪ノ國家ニ對スル全般ノ關係カラ見マシテ、犯罪ニ付テノ責任ハ問ハザルガ却テ刑罰權發生ノ根本理由ニ合スル、例ヘバ支那人ニ言ハシムレバ、刑ハ刑無キニ期ス、又近頃、ウイヘルムオストワルドト下ガ、刑罰ガ效力アラシメルノガ刑罰ノ目的デナクシテ、刑罰ヲ要ナラシメルノガ刑罰權發生ノ根本理由デア

付テ、政府ニ御考ガアルデアリマセウカ、如何デアリマセウカト云フコトヲ一ツ承ッテ見タイノデアリマス

○山岡政府委員 御説ノ如クニ此規定ハ、刑罰ノ根本問題カラ出發致シマス譯デゴザイマシテ、應報主義ヲ採リマスト云フト、斯ノ如キ規定ハ作ル譯ニハ參ラヌノデアリマス、今日我が刑事司法制度ハ、目的主義ニ依リマシテ、保護刑ヲ以テ犯罪防遏ヲ爲サントスル立場ニ在ルコトハ、只今御説明ノ通りデアリマス、必要ナル程度ニ之ヲ罰シテ犯罪ヲ防遏スル、刑ヲ刑無キニ期スト云フ意味デアリマス、ソレデアリマスルカラ、此保護刑ノ結果トシテ、執行猶豫ノ制度モアリマスルシ、更ニ假出獄ニ於キマシテモ、舊刑法カラ見マサルト云フト、非常ニ緩ク致シテ居リマス、殊ニ少年法ニ於テハ、不定期刑ノ制度モ採用致シマシテ、罪ニ對スル特定シタル應報刑ヲ科スルニアラズシテ、其本人ガ改善サレタラバ、何時ニテモ出獄セシメル、改善セザル限りハ、長ク之ニ對シテ刑ヲ執行スルコト云フ立案ヲシテ、既ニ當院ニ於テハ之ヲ協賛セラレテ居ル、斯ウ云フ所迄刑事制度ノ根本ハ進ンデ居ル、隨テ此御質問ノアリマシタル檢事局其他ニ相當ノ機關ヲ設ケテ、個性ノ調査ヲスルコト云フ事ハ、自然ニ其必要ヲ生ジテ來ルノデアリマス、此點ニ付キマシテ、此度ノ程度迄身神ノ調査ヲ科學的ニスル必要アリヤト申シマスルト委員長ハ特ニ御承知ノ通り、外國ニ於テハ性格的ニモ可ナリ調査ガ進ンデ居リマス、我國ノ犯罪現象、殊ニ犯人ノ狀態ニ付テハ、未ダ其調査ガ居イテ居リマセヌ、統計上其何部分ガ斯ノ如キ審查ヲ經ナケレバナラスモノデアアルカト云フコトヲ申上ゲルコトノ出来ナイ程度デアリマス、デ此行刑方面ニ於キマシテハ、兇惡ナル罪人ト普通ノ犯罪人トヲ種別致シマシテ以テ行刑ノ本旨ヲ個別的ニスルコト云フ趣旨ヲ立マシテ、此點ハ先頃一應ノ取調ヲシタノデアリマス、素ヨリ完全ナル調査デアリマセヌ、併ナガラ其調査ニ依リマスレバ、今日四万三千人ノ人中ニ、七百何人ノ兇惡囚ガ居ル譯デアリマス、デ私ハ調査シテ見テ、モト多イモノデアラウト思ッテ居タノデアリマス、犯人中ニハ兇惡デ處分ニ困ル所ノ者ガ頗ル多イト思ッテ居タノデスガ、實際ハ四万三千人ノ中ニ僅ニ七百何人デアッタコトハ、洵ニ私トシテハ喜ンデ居ル次第デアリマス、ソレデ要スルニ此兇惡ナル罪人トナッテ、反覆シテ非行ヲ演ズルト云フノガ、大體ニ於テ先天的ニ或ハ後天的ニ、性質ノ上ニ惡性ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、之ハ極ク單純ナ調ベデアリマシテ、素ヨリ事實トシテ申上ゲル價值ハナインノデアリマス、單ニ御參考ノ爲ニ申上ゲル、サウ云フヤウナモノガ兎ニ角デアリマス、デ之ヲドウシテモ此身神ニ付テ御意見ノ如クニ調査ヲ致サナケレバナラスノデアアル、其調査ヲシテ先天的ニ後天的ニ、既ニ惡性ガ牢乎トシテ抜ケカ

ラザルモノアルトナレバ、之ヲ改善セントスルガ如キハ人爲
デ出來ルモノデヤナイノデアリマス、即チ改善シ得ベキモノハ
普通ノ人間デナケレバナラス、普通ノ人間ガ改善ノ方法ヲ
執ルノデアリマス、改善ヲ受ケル所ノ者モ、亦普通ノ人間
デナケレバナラスコトハ論ヲ待ナイト思フデ居リマス、サウ云
フ次第デ、折角何トカ致シタイト思フデ居リマス、之ヲ何レノ
場所ニ設ケルニシテモ、身神ノ調査ヲ致スト云フコトハ、近
キ將來ニ於テ制度ヲ立テナケレバナラナイ存ジテ居リマス、
洵ニ委員長ノ御質問ノ點ハ、今日ノ刑事政策上頗ル重要
ノ點デアリマス、私モ此點ニ付テハ、洵ニ御同感ノ次
第デアリマス

○鶴澤委員長 ソレデハ午後二時カラ開キマス
午後零時二十一分休憩

午後二時十九分開議

○鶴澤委員長 午前二引續イテ開會致シマス、今度ノ留
保ハ第二百九十四條ト思フデ居リマス、何カアリマスカ

○横山委員 此二百八十七條ニ付テ、モウ質問モア
タラウト思ヒマスガ……

○鶴澤委員長 是ハ黒住君カラ質問ガアリマシタガ、宜シ
ウゴザイマス

○横山委員 是ハ詰リ公訴ノ時効中斷ノコトデアリマス
ガ、民法ニハ此時効ノ中止ト云フ意味ノモノガアリマスガ、
サウ云フコトハ司法省デハ考慮セラレナカタノデアリマス、
ソレヲ簡單ニ承テ置キマス

○山岡政府委員 時効ガ進行ヲ始メテ、或ル一定ノ間進
行シテナイト云フ意味デアルト存ジマス、此案デハ二百八
十八條ニ依テ時効ハ中斷ノ事由ノ生ジタル時ヨリ、更に進
行スルト云フ意味デアリマス、茲ニ入ル時モアリマスガ、
民法ノ如ク或ル一定ノ停止ト云フコトモ、此處ニ其意味ガ
籠テ居リマス

○横山委員 サウ致シマス、進シテ承リタイノハ、二百
八十七條ノ第二項デス、此二項ニ共犯ノ一人ニ對シテ爲
シタル手續ニ因ル時効ノ中斷ハ他ノ共犯者ニ對シテ其ノ効
力ヲ有ス、此規定ハ要スルニ一人ニ對シテ爲シタル公訴ノ
手續、又ハ豫審處分、其他ノ處分ガ他ノ共犯者ニ及ブト云
フ事デアリマシテ、是ハ二百八十二條ノ詰リ「公訴ハ檢事ノ
指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ボサス」即チ附
帶犯ヲ認メナイト云フ彈劾主義ノ例外ニナルベキモノト見
テ宜シノデアリマス、ソレヲ承リタイ

○山岡政府委員 其點ハ彈劾主義ノ例外トハナラナイト
考ヘマス、是ハ其犯罪不可分、總テ犯罪ノ處斷ニ付キマシ
テハ、不可分ノモノトシテ扱テ、犯罪ノ一部確定致シマスレ
バ、全部確定ニ及ブト云フコトノ規定デ、一人ヲ起訴スレバ

全部ニ及ブ、總テ犯罪ハ不可分ナリト云フコトハ御承知ノ
如クデアリマス、ソレ故ニ時効ニ依テ處罰ノ出來ナイト云
フ意味モ、同一ニ這入テ居ルノデアリマス、共犯ノ總テ
ニ對シテ一々ノ處分ヲ同一ニスルト、斯様ナ見地カラ規定
致シタルデアリマス

○横山委員 ソレデハ彈劾スルト云フ原則ノ例外ガアルカ
ト云フコトハ別トシテ、二百八十二條ノ例外ナルコトハ……

○山岡政府委員 二百八十二條ノ例外ニ、刑ノ上ニ於テ
ハナルト云フコトハ言フデ宜シト思ヒマス

○横山委員 ソレデハ第二百九十二條デス、此二百九十
二條ニ公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシト云フ、是
ハ民法、商法ノ規定ニ於ケル言葉カラ申シマス、詰リ公訴
ノ提起ハ受審主義豫審判事ガ手ニ取テ時分ニ其效力ヲ
生ズルモノト見テ宜シウゴザイマス

○山岡政府委員 其點ニ付キマシテハ刑事訴訟法ニハ總
テ效力ノ發生時期ト云フヤウナコトニ付テ書ク場合ニ、特
別ノ規定ハ大體置イテ居リマセ、如何ナル時カラ效力ヲ
生ズルカト申シマスレバ、時日ノ方カラ判斷スベキ規定ニナ
リマス、事案公訴ノ提起ト云フモノガアッタト云フコト
ガ、何時言ヘルカト云フコトニナリマス、結局豫審判事ガ之
ヲ受理シテ、申シマスレバ結局ハ書記課ニ於テ受付ケル譯デ
アリマス、ソレカラデナケレバ效力ヲ發生シナイト存ジマス

○横山委員 第二項ノ豫審ノ請求ハ、急速ヲ要スル場合、
即チ急場合ハ、口頭又ハ電報ヲ以テ爲スコトヲ得、是ハ
實際上ノ必要カラ起タコト、考ヘマス、此口頭ト云フ中
ニ電話モ包含スルカドウカ

○鶴澤委員長 是ハ政府委員ノ答辯デハ、ドウモ其事ハ
考ヘタケレドモ、電話ト云フコトハ入ラヌ積リデアルト云フコ
トデシタ

○横山委員 併ナガラ現行法ニ於テハヤッテ居リマセヌカ
○山岡政府委員 ヤッテ居リマセヌ

○横山委員 ソレハ例ガアリマス、電話ヲヤッテ、サウシテ何
月何日ノ何時ニ受付ケルト云フ、書記ガ電話ノ受付ニ居
テヤッテ居ルコトガ、記録ニ載テ居リマセヌカ

○山岡政府委員 ヤッテ居リマセヌ

○横山委員 ソレデハ含マナイモノト致シマシテ、ソレカラ
電報ノ場合、電報ハ御承知ノ通りニ受信人ガ電信局ニ電
信ヲ依頼シテ、電信局ハ之ヲ發送シテ、受信局ハ電信局ニ
於ケル用紙ニ之ヲ寫シテ之ヲ受信者ニ運ブノデアリマス、言
葉ハ甚ダ不完全カ知レマセヌガ、結局電報ヲ以テ豫審ノ請
求ヲシタ時分ニ、請求者ノ提出シタル書面ト云フモノハ
受信局ニ殘サレテ、他ノ方法ニ依テ受信局ガ受信局ノ用
紙ヲ以テ、之ヲ相手方ニ配達スルト云フ形式ニナッテ居リマ

ス、サウスルト電報ト云フモノハ口頭以上甚ダ不正確デアリ
マス、或ハ官報トカ、私報ト云フ區別ハアリマス、併シ受
取タ方デハ甚ダ不安ヲ感ズル場合ガ澤山アラウト思ヒマス
ガ、ソレヲ正確ニ保證スル事ニ付テ何カ御考ガアリマス、ソ
レヲ承リタイト思ヒマス

○山岡政府委員 電報ニ付テハ別ニ今日ノ實際ヨリ以
上ニ格段正確ノモノガアルト云フコトヲ考ヘタ譯デハナイ、
只今御説明ノヤウニ電報ヲ依頼シテ、ソレガ書面ニ依ッテ向
フニ配達サレ、其書面ニハ御説ノ通りニ官報ナラ官報
ト云フコトガ書現ハシテアリマス、ソレ故在來ノ經驗ニ微シ
マシテ、嘘ノ人間ガ官廳ニ電報ヲ打ッタト云フコトハ先ヅ無
イト思ヒマス、固ヨリ相場ナドニ當ッテ、或者カラ或者ニ虚偽
ノ電報ヲ打ッタト云フコトハアリマス、是ハ電信法デ非常
ニ重イ刑罰ニナッテ居リマス、實際ノ經驗ニ微シマシテ、在來
官廳間ニ於テ間違ガ生ジタ事ハナイノデアリマス、其經驗
上ニ於テ是ハ確カデア、ソレカラ尙ホ是モ實際デアリマス
カラ申上ゲテ置キマス、官廳ニハ此頃符號ヲ使ッテ居リマ
ス、檢事ノ名前ヲ表示スルノ特殊ナル符號ヲ使ッテ居リマ
ス、サウ云フコトハ他デハ容易ニ眞似ノ出來ナイ事デアリマ
スカ、是等ニ於テモ一層正確ヲ期スル事ガ出來ルコトニ
ナッテ居リマス、大體ニ經驗ニ微シテ誤リガナイカラ、斯ウ云
フ意味デアリマス

○横山委員 時効ニ關係スルカラ伺ッテ置キマス、電信
デ來タ場合、是ハ電信ガ當該官廳ニ著イタ場合ヲ以テ記シ
タモノト見ルノデアリマス、或ハ之ヲ調書ニ記載シ豫審
判事裁判所書記共ニ署名捺印スヘシ」此場合ニ效力ヲ發
生スルト解釋シマス

○山岡政府委員 理論ハ署名捺印シタル調書ガ出來テ、
ソコデ初テ公訴ガ完全ニ成立シタ、斯ウ見ルベキモノデア
ルト思ヒマス

○横山委員 ソレカラ此口頭若ハ電報ニ依ル場合、急
速ヲ要スル場合、即チ普通ハ書面ニ依ルト云フ原則ヲ設ケ
タノデアリマス、サウスルト後日ニ至ッテ豫審請求ハ、口頭
若ハ電報ヲ以テスルト云フヤウナ急速ヲ要スル事件デナイ、
斯ウ云フ問題ガ起タトキニ、急速ヲ要スルト云フ認定權ハ
誰ニアルト云フコトニ歸著シマス

○山岡政府委員 其點ハ今日ノ裁判例ニ一ツアリマス、
現行犯ノ特別處分ハ、御承知ノ通り急速ヲ要スル時デナケ
レバナラス、又急速デアッタカ否カト云フガ如キコトニ付テハ、
其當時ニ處置ヲ爲シタル者ガ、斯ノ如ク認定シタルバ、ソ
レガ時日ト遠カラヌ限り有效ナモノト見テ居リマス、是モ自
然ニ矢張其處置ヲ爲シタル方面カラ見テ、其時日ガ餘リ隔
リノ無イ限りハ有效トナル、斯ウ云フコトニ歸著シヤウト思

ヒマス

○横山委員 餘り隔ッテ居ッテ場合ハドウシマスカ

○山岡政府委員 其點ニナルト、是ハ裁判例ノ問題ニ涉ルヨリ外ハナイノデアリマス、餘り隔ッテ不都合ナルモノデアルトシテ公訴不受理、即チ公訴ハ不成立アルト云フ裁判モ出來ヤウト思ヒマス、サウ云フコトノ極端ナル場合ヲ想像スレバ、公訴無効ト云フコトモ出ヤウト思ヒマス、併シソレハ今此處デ御話ヲ申上ケテモ全部ハ盡キナイト思ヒマス

○横山委員 サウ云フ場合ハ想像シテ居ラヌト云フコトニナリマス、宜ウゴザイマス、ソレカラ二百九十三條ニ付テ伺ヒマス、此被告人ヲ指定スル場合ニ、氏名ガ知レル場合ハ、容貌體格其他ノ徵表ヲ以テスベシトアリマスガ、是ハ無論寫眞ナドヲ作ル場合ヲ想像シテ居ルノデアリマスカ

○山岡政府委員 左様デゴザイマス

○横山委員 宜ウゴザイマス、二百九十四條ハ豫審終結決定、又ハ第一審ノ判決アル迄ノヲ取消スコトガ出來ルト云フコトアリマスガ、是モ屢々檢事ノ地位ニ對スル不平カラ私ハ質問ヲ發スルノデアリマスガ、是ハ隨分檢事ノ側ニ於テハ都合ノ好イ規定デアリマスガ、先ヅ承テ置キタイノハ、第一審ノ判決アル迄、之ヲ取消スコトヲ得トアリマスカラ、既ニ審理ガ終ッテ、既ニ第一審ノ判決ヲ爲スニ熟シタ場合、若クハ既ニ判決書ヲ書イテ宣言ダケ殘ッテ居ルト云フ場合ニモ、此控訴ノ取消ガ出來ルト云フコトニナルト思ヒマス、極端ナル場合カモ知レマセヌガ、法文上想像スルコトガ出來ルト思ヒマス、サウスルト一事不再理ノ原則ニ抵觸スル場合ガアリハセヌカト云フコトヲ憂慮スルノデアリマス、審理シタ結果ヲマダ發表シテ居リマセヌ、現ニ事實證據ノ取調ヲ致シテ、サウシテ既ニ審理ガ終ッテ居ルト云フ場合ニ、何カ檢事ガ感ズル所ガアッテ、直ニ公訴ヲ取消シテシマフ、又公訴ヲ起シテ來ル、斯ウ云フ場合ヲ想像スルト、一事ヲ再ビ理スルト云フ甚ダ不都合ナル結果ニ到著シハセヌカト思フノデアリマスガ、サウ云フ場合ヲ是ハ豫想シテ居ルノデアリマセウカ、ドウデゴザイマス、承リタイ

○山岡政府委員 此規定ニ付キマシテハ任意主義ノ原則カラ言フト、何時デモ取消セルト云フコトニナラナレバ、調子ガ合ヒマセヌガ、サウ云フ事ハ餘り極端アルト云フ所カラ、餘程議論ガアリマシタ法文デアリマスガ、此處ニ落付イタノデアリマス、ソコデ只今御説明ノヤウナ場合ニ、之ヲ取消スト云フコトハ、裁判所カラ見レバ先ヅ行ハレナイ點デアリマス、結果ノ點ニ付テハ只今御述べニタヤウナ事ニハナリマセヌノデ、ソレハ三百六十七條ノ第一項デ公訴ノ取消ガアッテ時ニ於テハ、公訟棄却ノ判決ヲ致シマス、斯ウ云フ時ニ於テハ、更ニ訴ヲ爲スト云フコトハ無イノデアリマス、ソレ

デ檢事ガ勝手ナ事ヲスルト云フコトハナイノデス

○横山委員 ドウ云フ譯デ認メタノデスカ、何カ實際上ノ理由デモアリマスカ

○山岡政府委員 是ハ實際上ノ理由カラ申シマスレバ、檢事ガ起訴ヲシタ其後デ、豫審公判等ニ於テ調査ヲシテ見ルト云フト、二百八十一條ニキツチリ嵌マル情狀ガ現レテ居ル、斯ウ云フコトニ於テハ之ハ起訴セザルベカラザルモノデアラ、ダカラシテ判決ヲ待タズシテ其被告人ヲ原狀ニ戻スト云フコトガ實際上ニ必要アル、斯ウ云フコトガ今ノ必要論デアリマス

○横山委員 二百九十九條ニ付テ一寸承リタイ、是ハ豫審判事ガ共犯アルコト、他ノ犯罪ヲ發見シタ場合ニ於テ、檢事ノ請求ヲ俟タズシテ、豫審處分ヲスルト云フコトガ出來ルノデアリマスガ、是ハ所謂不告不理ノ原則ニ對スル例外デアルト思ヒマス、隨テ一種ノ附帶法ヲ認メタヤウナ形ニナリマス、サウ云フ工合ニ解釋シテ然ルベキデアリマスカ

○山岡政府委員 稍、サウ云フ形ニハナリマスガ、唯御承知ノ通り此案ニ於テ檢事ノ方カラ、是ハ豫審處分ヲ繼續スベキモノデナイトスルキニ於テ、直ニ止メテシマフノデアリマスカラ、僅カナ例外デアリマス

○鶴澤委員長 ソレデハ第三百三十六條——第三百三十七條——第三百三十八條

○鈴木委員 三百三十七條第四號ニ「被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ」ト云フコトガアリマスガ、一時的ノ心神喪失者、又ハ心神耗弱者ニ付テハ、山岡サン大部アナタハ著書デ御議論ニナッテ居リマスガ、是ハ矢張り一時的ノモノヲ含ムト云フ趣旨ニ考ヘテ宜シイノデアリマスカ

○山岡政府委員 此點ハ本條ニ於キマシテハ、心神喪失者又ハ心神耗弱者ト云フ人間ノ方カラ特ニ言葉ヲ使ッテ居リマスガ、斯ウ云フ場合ニハ大體ニ於テ繼續シタル方面ト云フコトニ使ヒマス、唯ダ刑法ノ總則ニナリマス、或ハ御承知ノ通り一時的ニ心神ノ喪失シタ者デモ、心神喪失者トスルカ、犯罪當時心神ガ喪失シテ居レバト云フノデ、一時的ノモノガ包含サレテ居リマス、併シ詐欺罪等ニナリマシテ、毒カ何カヲ使ハレタ時、即チ人ヲ心神耗弱者ト云フ風ニスル作用ノ方カラ實現致シテ居ルノデアリマシテ、此處ハ矢張り繼續の意味ヲ持ッテ方面カラ書現ハシ居ッテ、而シテ是ガ働ク場合ニ於テハ、被告人ガ法廷ニ於テ辯論即チ陳述ヲスル場合ニ於キマシテ、斯ノ如キ狀況ニアル場合ニ於テハ辯護人ヲ附ス、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、急ニ一時的ノ障礙カラ心神ガ耗弱ニナタト云フガ如キモノハ、此四號ニ豫想シナイモノデアルト解釋スルガ正當アルト思ヒマス、唯ダ必要ガアリマスレバ五號ヘ行ッテ極ク廣ク書イデアリマスカラ、

如何ナル場合ニモ付スルコトガ出來ル、例ヘバ熱病デ急ニ工合ガ惡クナッタガ、今日公判ヲ濟シテ宜イト本人ガ希望スル場合ニ於テハ、辯護人ヲ付シテ、其事件ハ濟ム、斯ウ云フコトガ出來ルノデアリマシテ、實ハ四號ノ解釋ヲ詳シク限定スルト云フコトハ、五號ガアリマスカラ、大體四號ノ意味ハ以上述べマシタコトデ御承知置キテ願ヒタイ

○鈴木委員 御解釋ハ能ク分リマシタガ、私モ多分サウ云フ御趣旨デアルト想像シテ居リマシタガ、刑法ノ方ハ一時的ノモノヲ以テ當然免ズルト云フコトハ、必ズシモ學者間ハ同一ノ說バカリデセナイヤウデアリマスガ、是ハ刑法ノ質問ニナリマスカラ此處デ申述べルコトハ甚ダ變ダスガ、月經中ノ婦人等ハ心神喪失アルトアナタハ御説キニナッテ居リマスガ、又サウデナイト云フ人モ大分アルヤウデアリマスガ、此點ハ矢張りアナタハ著書ノヤウナ御意見ヲ矢張り今日モ御持チニナッテ居ルノデアリマスカ

○山岡政府委員 前ニ申上ゲマシタヤウニ、刑法ニ於キマシテ、犯罪當時ノ精神狀況ニ在ルモノハト云フ事デゴザイマスカラ、其當時ニ心神喪失シテ居ルノデアリマスガ、或ハ耗弱デアリマスレバ、矢張り三十九條ヲ適用スルノ外ハナイ譯デスガ、サウ云フモノハ之ニ含ムト解釋スベキデ、今日ニ於テモ私ハ二項ノ耗弱モ、一項ノ心神喪失モ、同様一時的ノモノニ入ルトシナレバナラヌト思ッテ居リマス

○横山委員 三百三十八條ニ付テ、一寸承ッテ置キマスガ證據ト云フノハ何デアルカ、若シ適例ガアレバソレヲ承リタイ、而シテ其次ニ承リタイノハ、證人トカ風説トカ云フモノ、其中ニ這入ルノハ無論デスガ、風評、法廷外ノ自白、本人ノ供述、此三ツノモノハ證據ト云フ中ニ包含スルカドウデアリマスカ

○山岡政府委員 證據ハ事實ヲ認定スルニ必要ナル資料デアリマシテ、即チ事實ヲ明白ニスル材料デアレバ、總テ此證據ト云フ意味ニ含ミマス、隨テ只今例示サレテ居ル御質問ガ出ル譯デアリマス、被告人ノ自白ハ勿論アリマス、風評ニナリマス、今日ノ解釋上間接證據ニモナラナイモノデアリマスカラ、ソレハ入リマセヌ、法廷外ノ陳述ハ矢張り證據ニナリマス

○鶴澤委員長 第三百三十九條

○横山委員 是ハ要スルニ本條モ現行法ノ意味ト變ラヌノダト諒承シテ宜シウゴザイマス

○山岡政府委員 其通りデアリマス

○鶴澤委員長 第三百四十條

○横山委員 「被告人ノ訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ」、而シテ裁判長以外ノ者ガ訊問スル場合ハ裁判長ノ許可ヲ得テアルト云フコトニナッテ居リマスガ、此事柄ニ付テ或ハ質問ガアッテラバ、ソレハ速記録デ承知致シマスガ、本

案ハ裁判長ノ許可ハ要ルガ、直接ニ檢事又ハ辯護人が被告
人證人鑑定人等ヲ訊問スルコトが出来ルト解釋シテ宜
シウゴザイマス

○山岡政府委員 宜シウゴザイマス

○鶴澤委員 第三百四十一條——第三百四十二條

○山岡政府委員 是ハ捜査上必要ガアリマシテ、其事件
ノ聯絡ヲ示スガ爲ニ必要ナルモノデアレバ、記録ハ綴ラレテ
來ルコトナリマス、捜査上ノ聯絡ノ必要デナイモノヲ風説
ヲ載セルナドト云フコトハアリ得ベカラザルコトデアリマス、ソ
コデ極ク間接ナ書類ガ記録ニ殘リマスノハ、取調若クハ審
理ノ聯絡ヲ示ス爲ニハ載ル場合ガアル、サウ云フ場合デモ人
ノ名譽ヲ毀損スルガ如キ虞アルモノハ朗讀ヲシナイ、斯ウ云
フ意味デアリマス、序デアリマスカラ、寧ロ明ニスル爲ニ申上
ゲテ置キマスガ、三項ニ其書類ハ被告人ニ示シ、文字ヲ解シ
ナケレバ、要旨ヲ告ゲテ證據調ニスルト云フコトナリマス
ラ、風説ノ如キガ證據ニナルガ如キ疑ガナトハ言ヘナイ、併
シハ證據トナルモノデケレハ、證據ト出來ルト云フコトニ二項
ハ非常ニ廣ク含シテ居リマス、三項ハ其中證據ニナルモノハ
斯様ニシテ證據調ニスル、斯ウ云フ狹イコトナリマス

○鶴澤委員 第三百四十三條——第三百四十四條

○山岡政府委員 是ハ理窟ヲ言ヘバ切リノ無イ事デセウガ、要
スルニ吾々ノ意見トシテハ三百四十五條ノ第二號、第三號
第二項共ニ是ハ反對ノ條文デアリマス、要スルニ「疾病其ノ
他ノ事由ニ因リ供述者ヲ召喚シ難キトキ」、サウ云フ場合ニハ
本法ノ規定ニ依ラナイ、訊問調査デア、デモ總テ證據ニ出
來ルソレカラ第三號ハ又極端ナ規定デ何デモ訴訟關係人
ガ異存ガナイ場合ニハ、警察官ノ作タモノデモ、巡査ガ作
タモノデモ何デモ、一切合切證據ニ取ラレル、是ハ訊問及訊
問調査ト云フモノニ嚴格ナ規定ヲ置イタ趣旨ヲ、此處ニ來
テ全部破壞シテシマフト云フ趣旨ニナルト考ヘマス、ソレカ
ラ第二項ハ是ハ又ソレ以上不都合ナ規定ニナリハセヌカト
思フ「區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ル
コトヲ要セス」是モ極テ廣汎ナ規定デ、區裁判所ニ於テハ何
テ證據ニ取テモ宜イト思フ意味ニ諒解シマスガ、其諒解ハ
違テ居ルマイカト思フ、前段ニ申上ゲタ疾病其他ノ事由ニ
因リ供述者ヲ召喚シ難キト云フ、ソレカラ訴訟關係人異議
ナキトキ、斯ウ云フ規定ヲ置キマス、自然警察官、檢事等
ガ法律ニ背イタ、法律ノ規定ニ依ラザル證據ヲ作テ、其物
ヲ後日證據トスルコトが出来ルト云フ確信ヲ持ツ結果無
暗ニ人ヲ訊問スルト云フコトガ起シテ來ハシナイカ、又訊問
シタモノハ何デモ斯デモ記録ニ綴ラシテ置イテ後日ノ用ニ
供スル、第一號ノ供述者ノ死亡シタ場合ハ是ハ已ヲ得ナイ
例デアリマセウ、死シテ居ナリト時分ニハ他ニ方法ガナイノデ
スカラ、是ハ絕對ニ訊問スルコトハ出來ル場合デアリマス
ラ、是ハ如何トモスルコトが出来ヌ、併ナガラ第二號ノ場合
ハ召喚シ難キト云フモノハ、召喚スルニ困難ナラ官吏ガ出
張スレバ宜イ、臨床訊問デモ色々アル、管轄外デモ仕事ヲス
ル場合ガ規定シテアルニ拘ラズ、嚴重ナ原則ノ破壞スル、單
ニ召喚シ難イコト云フコトニ依ラズ、斯ウ云フ書類ノ證據カラ
認メルコトハ不都合ト思フ、殊ニ召喚シ難キト云フモノハ
是亦其訊問スル人ノ鑑識ニ依テ決定スルコトデアリマスカラ
甚ダ不都合ナ結果ヲ生ズルト考ヘマス、第二號ノ規定ハ訊
問シ能ハザルトキ、死ニ瀕シテ訊問スルコトが出来ヌトカ、或
ハ支那朝鮮ニ行テ居テドウシテモ出來ヌト云フヤウナ場

合ハ、之ヲ效力ヲ生ゼシムルコトハ考慮スベキ點ト思ヒマス、
單ニ召喚シ難キ故ヲ以テ其證據カラ認メルノハ不都合デ、
訴訟關係人異議ナキト云フ文字モ、今日裁判所ノ權限ガ
擴張サレテ、地方裁判所ニ於テ言渡ス刑ヨリ重イ刑ヲ科ス
ルコトハ幾ラモアル、窃盜ノ如キ十年十五年ニ處スル、斯ウ
云フノハ常ニ實驗スル所デアリマス、特ニ第二項ガ人權擁
護ノ上カラ考慮スベキ點ト思ヒマス、之ヲ一括シテ御説明
ヲ願ヒタイ

○山岡政府委員 是ハ洵ニ大切ナ規定デアルコトハ只今
御述ニナツタ通りデアリマシテ、現行法ニ於テハ此直接審理
ト云フコトハ表カラ書キマセヌデ、直接審理ヲスレバ出來ル
規定ヲ置キマシテ、警察官其他ノ者ニ呼出サレコトヲ得
ト云フヤウナ規定ヲ置イテ、呼出シテモ宜イト云フガ如キ關
係ノ規定ヲ置イテ施行シテ居ルノデアリマスガ、本法ハ茲ニ
之ヲ明カニシテ、直接審理ヲスベキモノデアルト云フ點ハ、少
クトモ現行法ヨリ一步ヲ進メタコトハ申上ゲルマデモナク、
既ニ御諒承下サルコト、思フ、ソコデ何處迄此直接審理ト
云フコトヲ進メ得ベキヤ、理想カラ申シマスレバ、如何ナル事
件ニ付テモ直接審理ヲスルト云フコトガ、今日ノ裁判審理
ノ理想カラ言ヒマスレバ宜イト言ハナケレバナラヌ、唯此法
律ハ矢張サウドウモ急ニ理想ノ域ニ進ムコトハ困難デアリ
マス、此規定ヲ置キマシタナラバ漸次直接審理ニ裁判ノ實
際ガ向ヒマシテ、遂ニ此區裁判所ノ事件マデモ必要ナモノ
ハ直接審理ニナルヤウニナルデアラウ、斯様ナ希望ヲ以テ二
項ニ於テモ、區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ノ制限ニ依ルヲ要セ
ズ、前項ニ依ラズデ宜シイ、又事件ニ依テハ左様ニシロ、斯
ウ云フ意味合デ要セズト云フコトヲ書イタ譯デアリマス、理
想ハ今御述ニナツタ御意見ノ大要ニ依ラズテ寛ハレル如ク、直
接審理ニ進ミタイノデアリマス、唯今日ノ程度ニ於テハ此程
度ガ然ルベキモノデアルト云フノガ立案ノ精神デアリマス、而
シテ區裁判所ノ事件ニ付キマシテ刑ガ重ク科セラレバ、多
數ノ事件ハ區裁判所ニ於テ審理サレテ居ルト云フコトハ、
今日ノ實情デアルコトハ御述ニナツタ通り、中々重イ刑ヲ言
渡スデアリマス、ソレ故ニ刑ノ範圍ト事件ノ歩合カラ申シ
マスレバ、寧ロ刑事裁判所ハ區裁判所ニ在ル、斯ウ申シテ
宜イ、ソレニドモ直接審理ノ原則ニ從ハナイデ宜イト云フ
規定ヲスルノハ、甚ダ適當デナイト云フ御意見、其方カラ言
ハバ御尤併シ之ヲ實際ノ必要カラ見マス、區裁判所ノ
事件ノ大部分ト云フモノハ簡易デアル、サウシテ輕微ナモノ
ガ多ク、サウシテ重イ刑ヲ言渡スノハ何デアルカト云ヘバ、窃
盜及之ニ類スル財產罪、窃盜トカ横領トカ云フヤウナモノ
ハ事案ガ極テ單純デアリマシテ、隨テ被告人ノ自白スルノガ
餘程ノ部分ヲ占メテ居リマス、サウ云フ次第デアリマスカラ

事件が重クアリマシテモ、内容が簡易ナル、故ニ裁判ニ付テ誤判ヲ來スヤウナラハ殆ドナイ、サウ云フ意味カラ二項ヲ規定シテ譯デアリマス、ソレカラ一項ニ號デアリマスガ、是ハ最後ニ御説明ニナタヤウニ、朝鮮デアルトカ、或ハ臺灣トカ、我國モ版圖ガ廣クナリマシタカラ、南洋ニ行ッテ居ルトカ、或ハ其他ニ行ッテ居ル場合ガアリマス、近來ニ於テ多數ガザイマス、サウ云フヤウナ場合ハ、矢張規定ヲ置カナケレバナラヌデアリマス、勿論ソレ以外ニ於テ疾病ト云フコトヲ例示シテ居リマスガ、疾病ガ主ナモノデアルト云フコトハ此條文分ル、召喚シ能ハザルト致シマシテモ、孰レニ致シマシテモ此規定ヲ置カナケレバナラヌ、置ケバ能ハザルト云フコトニシタガ宜カラウト云フ御意見ハ、承テ宜イ御意見ト思ヒマスガ、兎ニ角難キト致シテモ、能ハザルトキト致シマシテモ、直接審理ノ原則ヲ尊重スル裁判官デアラナラバ、裁判ノ働ノ上ニ於テ何等差違ハナカラウト存ジマス、次ニ三號デアリマス、是ハ本人ガ異存ノナイ以上ハ、刑事訴訟ハ處分權主義デアリマス、御承知ノ通りデアリマスガ、併シ幾ラ處分權主義デアリトシテ見タ所デ、證據ノ點ニ處分權ヲ與ヘテ見タ所デ、害ハ無カラウト思フデアリマス、被告人自ラ自白シテ、是レ以上調ヘテ貰フ必要ガナイト云フガ如キ場合ニ於テ同シ働キガ出テ居ルデアリマス、證據ノ或部分ニ付テ處分權ヲ認メルコトハ、實際ノ働キトシテ至當ナル事柄デアラウト思ヒマス、尙ホ陪審法ニ於テモ、被告人ガ自白シタナラバ此陪審ニ付セナイト云フヤウナ精神モ現レテ居ル次第デアリマシテ、要スルニ當事者ノ處分權云フモノヲ一體刑事訴訟法ニ於テ絕對ニ認メナイ、眞實職權主義デアルト云フコトハ、主義トシテハ、成程職權主義デナケレバナラス、如何ニ自白シテモ罪ノ無イ者ニ對シテ刑ヲ言渡スコトハ出來ナイコトデアリマスガ、或程度マデハ處分權ヲ認メルコトハ私ハ適當ト思フデアリマス、ソレヲシナイト無益ナ手續ヲシナケレバナラスコトニナリマス、結局サウ云フ次第デ此三號ハ置キマシタデアリマス

○横山委員 此第二號ニ關スル説明ハハマアソレ以上ハ議論ニナルト思ヒマス、第三號ニ關スル只今ノ議論ハ、是ハ全ク實際ニ當テ嵌ラナイ議論デアリマス、民事訴訟ニ於テモ屢々經驗スルコトデアリマスガ、本人ガ裁判所ニ出テ證據ノ怪シイ物ヲ裁判官カラ示サレテ、何デモ宜シウゴザイマス、宜シウゴザイマス認メテ來テハ、後デ動キガ取レスト云フ例ハ、吾々ハ屢々經驗シテ居リマス、而モソレガ自分ノ作ッタ證書デアラナラバ結構デアリマスガ、サウデハナイ、全ク自分ノ干與セザルモノマデモ認メテ來テ、能ク丁寧親切ニ之ヲ聴ケバ、全ク知ラヌデアルト云フノデ、取返シノ付カヌ場合ガ

アル、殊ニ刑事ニ於テハ、是ハ訊問ノ場合ニ於テ必シモ警察官檢察裁判官ガ脅嚇、詐證、誘導ノ訊問ヲスルトハ私ハ申シマセヌケレドモ、併ナガラ何故斯ウ云フコトヲ豫審ニ於テ言ッテデアルカ、或ハ檢事廷ニ於テ斯ウ云フコトヲ饒舌タデアルカト云フコトヲ、後日公判ノ辯護ノ際ニ吾々ガ直接ニ被告人ニ曉クト、イヤソレハドウモ斯ウシテ置イテモ意味ハ違ヒハシナイ、文書ガ違フダケデ、オ前ノ言フコト、同ジダト豫審判事ガ言ハレタカラシテ、判ヲ捺シテ來マシタ、時ニハ檢事ガ今忙シイカラ、ソナ思圖々々言ッテハ困ル、文書ニオ前ノ言フ通り書イテアルカラ宜シイト云フノ判ヲ捺シテ來タト云フノデ、不平ヲ言フコトガ屢、アリマス、是ハ單ニ理解ノ無イ下層社會ノ人間ノミデハナイ、現ニ此前委員長ナドモ關係シテ居ラレタ京都ノ事件ナドニ於テモ、最も大キイ、是モ是モ皆豫審判事ガ書イタデアルト云フ、ソレトハ多少意味ガ違ヒマスケレドモ、ソレハ同ジヤウナ意味デ、裁判官ガ多數ノ傍聴人ノ前デ被告ヲ御調ニナル、辯護人モ附イテ居ナイ、法廷ヘ出ルコトガ既ニ傍聴人ニ對シテモ、總テノ者ニ對シテモ、耻シクシテ堪ヘヌト云フヤウナ場合ニ、此證據ハドウデアラウ、全ク法律ノ規定ニ依ッテ居ルノデナク、命令ノ規定ニ依ッテ居ルノデナク、現ニ其處デ調査スル暇モナイ、一讀スル暇モナイ、又一讀スルダケノ文字モ無イト云フ場合ニ、何デモ裁判官ノ前ニ頭ヲ下ゲテ居ルト云フコトヲ實際目撃シテ居ル、現ニ吾々ハ自分ノ關係ノ無イ被告事件ノ審理ヲ、其順序ヲ待ツ爲メ法廷ニ居テ傍聴シテ居テモ、コンナモノヲ認メヌデモ宜カラウト思フデモ、唯諾タトシテ裁判長ノ言フ通りニナル、ソレハ理解ガ有テ自分ガ認メルノ結構デアリマスケレドモ、中ニハ初メテ法廷ヘ行タトカ何トカ云フ者ハ裁判官ガ法律語デ行キ、言語ガ少シク明瞭ヲ缺イテ居ル場合デモ、大キナ聲デ叱ラレルト、ヘイ、言ッテ居ル、ソレガ第一證據ニナッテ來ル、是ハ皆裁判官ガ辯護人ノヤウナ屢々法廷ニ出テ居ル者ハ、ソナ過チハアリマセヌケレドモ、生レテ初メテ裁判所ニ行ッテ者ハ、斯ウ云フ規定ガアルト、何デモ證據ニサレレ、斯ウ云フ實際上ノ弊害ガアリマスガ、併シ其以上ハ意見デアリマスカラ、是ハ若シ尙ホ他ニ考慮セラレテ居ルコトガアレバ承リタイ、私ハサウ云フ理由デ反對スルト云フコトヲ申シテ置キマス、ソレカラ區裁判所ノ場合、是ハ吾々ノ窃盜ノ場合ガ恰モ問題ニナツタカラ申シマスガ、檢事ヤ裁判官等ハ、何時モ役所ニ居テ、人民ニ接觸セラレナイ、接觸シテモソレハ嚴重ナ法廷デ、左様然ラバ應答ヲ爲サルダケデアル、一體此被告人ハドウ云フ人間デアルカ、被告ノ側カラ云ヘバ、裁判官ハドウ云フ人間デアルカ、ソレモ分ラナイ、見タコトモ聞イタコトモナイ人間ガ、出合頭ニ裁判シ、裁判セラレルコトニナッテ居ル、芝居ヲ見ニ行ッテモ、今度ハドウ云

フ藝題デ、ドウ云フ役者ガ出ル位ノコトハ研究シテ行ケレドモ、裁判ヲ受ケニ行クトキニハ、全ク分ラナイ、吾々ニモ分ラナイ、今日ハ此部長ガ出ルト思フデモ、風ヲ引イテ休シタト云フノデ、知ラヌ者ガ出テ來テ調ベル、殆ド西洋人ガ出合頭ニ裁判ヲスルト云フヤウナ狀況ニナッテ居ル、ソコデ裁判所ノ諸公ニハ、民間ノ事情ガ御分リデアリマス、竊盜事件ニ付テ自由ガ多イト云フ、所ガ十モ二十モアル場合ニハ、一部ノ自白ガ眞實デアルト云フト、全ク間違ヒデアリマス、泥棒ガ十モ二十モ嫌疑ヲ受ケテ白狀シテ居ル者ヲ見ルト、後デ大概知ラヌ者ガ多イ、ケレドモヤカマシク言ハレルカラ、ヘイ、イト言ウテ居ルノデ、現ニ私ノ經驗シテ居ルノハ、同ジ事件ニ二ツノ被告ガアタコトデアル、前ノ被告ガ自白シテ言ッテ居ル、後ニ訊問シテ見ルト、又同ジ事ガ出來テ來ルト云フコトガアリマス、サウ云フ場合ニ、區裁判所ニ於テ窃盜ノ場合ニ自白シテ居ルカラ宜カラウト仰シヤルト、罪ヲ犯サズシテ刑ニ服スル者ガ澤山出テ來マス、併ナガラ唯一ツデモ關係ノ無イ者ガ自白シタカラト言ウテ、監獄ニ送ルコトハ、是ハ無辜ヲ罰スルコトデアッテ、甚ダ宜シクナイ、ソレハ現ニ行レツ、アル、デアルカラ、低級無智ナル被告人ガ最も多ク出入スル區裁判所、而モ區裁判所ノ場合ニ於テハ、多クハ辯護人ガ附イテ居ラナイ、サウ云フ場合ニハ、特ニ職權主義ヲ發揮シテ、進ンデ裁判所ガ取調ヲヤル誠意ヲ示シ、又努力ヲ示サナカッタラバ、非常ナ人権蹂躪ノ結果ニ陥ルコトガアルト思ヒマス、サウ云フ次第デアリマス、是ハ現行法ニモ此意味ノ規定ガアタト思ヒマス、三百四十八條ニ關聯シテ居ル、是ハ三百四十八條ノ意味ヲ擴張サシテ來テ居ル、デアリマスカラ私ハ絕對ニ處分權ヲ本法ニ於テ認メルコトヲ要セズト云フノデアリマセヌ、併ナガラ區裁判所ニ於テハ特ニ裁判官カ踏込シテ御調査ヲ爲サル必要ガアルト云フコトヲ私ハ考ヘマス、偶々、窃盜事件ニ付テノ例ガ私ヨリ出、政府委員カラモ出マシタカラ、之ヲ例ニ引イテ私ハ此法文ノ維持スベカラザルコトヲ申シテ置キマス、是ハ私ノ意見、而シテ第一項ニ戻ッテ此「法令」ト云フ字ガアリマス、被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調査ニ非ザルモノハ「云々此「法」ノ字ハ分ッテ居リマスガ」令」ノ字ガ目障リニナリマス、是ハドウ云フ意味デアリマス、ソレヲ一寸釋明ヲシテ戴キタイト思ヒマス

○山岡政府委員 人ヲ訊問スルト云フコトニ付テ、命令ヲ以テ直ニ規定ヲ置タト云フコトハ、是ハ今日ノ法律制度ノ下ニ於テハ大體無イト思フ、唯法律ノ委任ニ依ッテヤルコトハ出來ルノデアリマシテ、是ハ刑事訴訟中ニ於テモ、要スルニ法律ニ從ッテ所ノモノデアレハ、證據トスルコトガ出來ル、斯ウ云フ意味デ、大部分ノモノハ法律デアリマセヌケレドモ、條

文トシテ書ク時ニ於テハ「法律ニ依リ」ト云フヤウナコトハ、此頃ハ大抵書キマセヌノデ、憲法ニハアリマスルガ、外ニハ「法令ニ依リ」ト書イテアリマス、此案ニモ他ニ「二箇所」アット思ヒマス、本當ノ働キニナレバ、法律ト云フコトニナリマス

○山岡委員 ソレデハ法律ト改メテモ、適用ノ上ニハ大シテ差支ナイト云フノデスカ

○山岡政府委員 左様デス

○鈴木委員 今ノ質問ニ關聯致シテ居リマスルガ、法律ト云ヒマスルト、此改正案ニ付テ、私が一寸訊問スル權限ヲ與ヘタ條文ヲ調ベテ見マスルト、司法警察官ニ對スル第二百二十七條、檢事ニ對スル第二百九條、以上二箇條ハ共ニ現行犯ニ關スルモノデアリマス、ソレカラ豫審判事ニ對スル三百二條、公判判事ニ對スル三百四十條、此四箇條ノヤウニ私ハ拾ヒ出シタデアリマスガ、是レ以外ニ何カアリマスカ

○山岡政府委員 只今御示シノ外ニ、受命判事ノ爲ス場合、其他囑託ヲ受ケタ者ノ爲ス場合、準備手續ヲ爲ス場合等ガアリマスカラ、ソレデハナカラウト思ヒマス、主ナ場合ハ御舉ゲニナツタ通りデアリマス

○鈴木委員 サウスルト、今ノ點ヲモウ一應確メテ置キマスガ、横山君ノ質問ニ對シマシテ御答ニナツタ通り「法律」ト改メテ異議ハナイ譯デアリマスカ

○山岡政府委員 異議ハナイトハ申サナイデアリマス、働キノ上ニ於テハサウ云フ結果ニナリマスガ、法令ト云フ使ヒ方ハ、憲法ヲ離レマスルト、斯ウ云フ使ヒ方ニナツテ居リマス、サウシテ法律ノ委任ニ依ル命令デアリマスカラ、斯ウ云フ場合ニハ「法令ニ依リ」トスルコトガ必要デアリマス

○豫審委員 尙ホ進ンデ人權蹂躪問題ヲ惹起スルニハ、檢事若クハ司法警察官ノ聽取書ヲ證據トスル許リデナク、豫審判事ガ被告人ヲ訊問シ、又訴訟關係人ヲ取調ベルニ付キマシテモ、矢張色々弊害ガ生ジテ來ルデアリマスカラ、事實ノ真相ヲ發見スルニハ、全部直接審理主義ニ基キテ、公判ニテ取調ベルモノニ限ルヲ至當ト思フ、而シテ直接審理ノ出來ザルトキハ、例外ヲ置イタ方が最も進歩シテ直接デアッテ、今日ノ實際ノ上カラ考フルモ、其例外ヲ少シ廣ク認メテ置ケバ、決シテ差支ナイト、斯ウ思量サレマスガ、其點ニ付テノ當局ノ御意見ハ如何デアリマスカ

○山岡政府委員 此點ニ付テハ、根本問題カラ一ツ考ヘナケレバナラヌノデ、刑事訴訟法ノ立案中ニ、豫審ヲ起訴前ノ處分ニスルト云フ説ガアリマシタ、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、訊問調書ト雖モ、矢張裁判上ノ訊問調書ト云フコトハ、形式カラ云ヒマスルト、實質ニ於テハ搜查中デアル、サウ云フモノデアレバ、御意見ノ如ク論理ノ上カラ、法理ノ上カラ

至當デアリマス、現行法ノ如ク起訴後豫審、而シテ又本案モ起訴後豫審トシマシテ、豫審ハ即チ地方裁判所ノ延長シタルモノノ外ナラナイデアリマスカラ、縱令公判ノ準備調査ニハナリマシテモ、純粹ナル是ハ判事ノ調査デアリマスルガ故ニ、公判ヲ開イテ以後ニ、受命判事ニ取調ヲサシナト、何等ノ差異ハナイデアリマス、豫審判事ト云フモノハ、矢張檢事ノ方カラ影響ヲ受ケテ心證ニ從ハザル所ノ調査ガ出來ル、斯ウ云フ事カラ考ヘルト無理デアルト思フ、今日ノ實際ヲ見マスルト、或、サウ云フ場合カ無イトモ申サレマスマイガ、是ハ今日以後ニ於テハ、起訴後豫審トシテ、地方裁判所ノ判事ガ一人デアルデアリマス、ソレデ此案ノ實施ガ出來マスル以上ハ、之ヲ一ノ時機トシテ、ドウシテモ獨立ナル判事トシテヤラナケレバナラヌト思フ、ダカラ性質已ニ斯ノ如クナル以上ハ、其調査ハ恰モ公判開始後ニ於テ受命判事ガ取調ベタト同等ノ價值ガアルモノト見ナケレバナラヌ、又實際ニ於テ斯ノ如クナクテハ、此裁判官ノ眞ノ意義ト云フモノハ無クナラウト存ジマス

○豫審委員 二百九十七條ヲ見マスレバ、豫審ハ單ニ其事案ヲ公判ニ付スベキヤ否ヤヲ決スル爲ニ必要ナル事項ヲ取調ブルヲ目的トシテ居ル、只今ノ御説明ニ依レバ、豫審判事ハ地方裁判所ノ延長デアッテ、證據蒐集機關ト云フヤウナ意味ニナリマス、此目的ニ副フダケノ仕事デアレバ、殆ド證據ト云フモノハサウ澤山調ベナクテモ、十分目的ニ副フコトニナルノデ、此目的ノ範圍内ニ於テ仕事ヲシ、其資料ガ公判ニ行ッテ必要ナル事項ヲ悉ク調ベルト云フ譯ニナリマスカラシテ、此目的ノ範圍内ニ於テ、ソレニ副フダケノ證據ナラバ、ソレヲ調ベタ所ガ、非常ナル手數ヲ要スル譯デナイカラシテ、又手數ヲ要スル時ハ例外トシテ置イタナラバ、決シテ差支ナイト思ヒマスガ、ソレニシテモ是非豫審ニ於テ爲シタル所ノ證據調ト、其結果ト云フモノハ、間接デアッテモ、之ヲ證據ニシナケレバ、非常ニ不都合ヲ生ズル點ガアリマセウカ

○山岡政府委員 其點ハ二百九十七條ヲ御引用ニナツテノ御意見デアリマスガ、コ、ハ極ク必要ナル程度合フ限ッテ居リマスルカラシテ、公判ノ來テ十分調ベノ餘地ヲ殘シテ居ルダカラシテ僅ナ調ベデアッテ、殘ル部分ガ相當アラウト云フ御意見、是モ其通りデアリマス、併シ此公判ニ付スルヤ否ヤト云フコトハ、非常ニ重大ナ意義ヲ持ツコトデアリマスカラ、二三ノ關係者ヲ調ベテ、公判ニ付スルト云フ譯ニハ行クマイト思ヒマス、其處デ材料ヲ得ノ邊マデ調ベルトシタラ、今日ト比較シテ少ナクナルシテモ、サウエライ隔リハアルマイト思ヒマス、唯、調書ノ作成トカ、色々意味ガ二百九十七條ニ規定サレテ居リマスカラ、成ル程度マデ變ッテ參ル點ガアラウト思ヒマス、極ク僅カノ者ヲ調ベテ、直ニ公判ニ付スルコト

ガ定マルト云フコトニハ行クマイト思ヒマス、若シ僅カノ者ヲ調ベテ公判ニ付スルコトガ出來ルモノトスレバ、實ハ豫審ニ掛ケナイデ、檢事ノ手ニ依ッテ或程度マデ調ベテ、直接審理スレバ宜イデアリマス、豫審廷ニ付シタ以上ハ、公判廷ハア、云フ場所デアリマスカラ、直ニ證據ヲズット集メテ、可ナリノ點マデ調ベヲシナケレバナラヌ、故ニ之ヲ獨立ナル裁判官ノ自由ノ意見ヲ以テ認メラレタル所ノ調査ガ、證據ニナラヌト云フコトハ決シテナイト思ヒマス

○鶴澤委員 第三百四十六條

○鈴木委員 證據調ノ請求及請求ニ對スル決定ハ、無論公判デアルベキガ原則デアリマセウカ、公判外デモヤッテ宜イト云フ御趣意ハアリマセウカ

○山岡政府委員 此却下ノ決定デゴザイマスガ、是ハ準備期日ノ處ニ必要ナ規定ハシテアリマス、準備期日ノ處デ、必要ナ證據ハ總テ之ヲ調ベル點ハ調ベル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス

○鈴木委員 朝鮮ナドデヤッテ居ルヤウニ、唯公判外ニ於テ申請シテ、其處デ決定サレルト云フコトニハイカナイデアリマセウカ

○山岡政府委員 期日ノ間ニ於テモ、此案ノ精神ハ證據ノ決定、其他ノコトハ出來ル積リデ居ルノデス

○鈴木委員 サウシマスルト、此改正案ニ於キマシテハ、證據調ノ請求モ、公判期日裁判外ニ於テ爲スコトガ出來ルカトウカト云フコトヲ伺ッテ置キタイ

○山岡政府委員 三百二十六條ノ一項ニ於テ公判期日ニ於ケル準備ノ爲ニハ、總テ證據ノ手續ガ出來ルコトニナツテ居リマスカラ、其點ハソレニ依テ出來マス

○鶴澤委員 第三百四十七條——第三百四十八條

○宮古委員 三百四十八條ニ、區裁判所ニ於テ被告人ガ自白ヲスレバ、證據ヲ調ベヌデモ宜イトアリマスガ、是ハ矢張弊害ノ起ルヤウナコトハアリマス、唯自白シタゲデ、證據ヲ調ベズシテ犯罪ヲ斷定スルト云フコトハ、今日ノ現行トハ餘程違ッテ居リマスガ、ドウ云フ譯デアリマスカ

○山岡政府委員 其點ハ現行法ト同様デアリマス、現行法ニ於テモ區裁判所デハ裁判シテ證據ヲ取調ベルニ及バナイト云フ事ニナツテ居リマシテ、別段之ニ依ッテ犯罪ヲ出シタト云フコトハ未ダ會テ間イタコトハナイデアリマス、必ズ害ハ無カラウト思ヒマス

○鶴澤委員 第三百四十九條——第三百五十條——第三百五十一條

○横山委員 三百五十一條ハドナタカ質問シヤウニ思ヒマスガ、私はハ成ベク廢メテ貰ヒタイト思フ規定デアリマス、即チ三百五十一條ノ第三項ニ辯護人數人アル場合

ニ於テ、重複シタル意見ヲ述ベルコトガ出來ナイト云フ規定
デアリマス、是ハ立法ノ意味ハ此通りテ結構デアリマスガ、
之ヲ事實ニ適應スル場合ニ於テ、ソレハアナタノ議論ハ何
度モ聞イタコトガアル、斯ウ云フコトデ止メラレト、殆ド數
人辯護士ガアル場合ハ、一人シカ辯護ガ出來ナイコトニナ
ルト思ヒマス、元來意見ガ重複スルカドウカハ、全部聞イテ
見ナケレバ分ラナイデアリマス、唯此事項ニ付テ、此條文
ニ依テ、是ハ認メルコトガ出來ナイト云フ規定モ、
其論理ノ道程ヲ悉ク聞イテ、而シテ結論ニ行テ、初メテ重
複スルカドウカト云フ事ガ分ルデアリマス、最初ノ一言ニ
言フ聞イテ、アナタノ意見ハ前ニ言フ辯護人ノ辯論ト重複
スルト云フコトニナルト、殆ド數人辯護士ガアル時ニハ、悉
ク意見ヲ述ベラレナイト云フコトニナルト思ヒマス、是ハ勿
論規定ガ無クテモ、今日實際法律ノ有様ヲ見ルモ、是ハ前
ニ聞イタカラト云フ爲ニ、ソレヲ押切テ辯護人ガ裁判官ト
論争シテ重複シタル意見ヲ述ベルコトハナシ、其規定
ガ生ズルハ、實際ノ事情カラ見ル、辯護人ガ數人アル場
合ニ於テ、或辯護人ガ辯論ニ缺席シテ、其辯護人ガ前ノ辯
論ヲ知ラズシテ辯論スルト云フ場合ニ起ルコト、思ヒマスガ、
サウ云フ事ハ、辯護人ノ側ニ於テ、辯護士トシテ大ニ考慮ス
ベキ問題デアッテ、法律ヲ以テ豫メ斯ウ云フ規定ヲ作ルコト云
フコトハ、辯護權ノ制限ニナルト思ヒマスカラ、廢メテ貫ヒタ
イト思ヒマス、尙ホ御意見ガアレバ承リマス

○山岡政府委員 前段ニ御述ベニナク、御九ナ點デ
述ベテ見ナケレバ何ヲ言フカ分ラナイ、ソレデ述ベテ重複ス
ルカラスウ云フコトハ廢メロト云フコトデ、甚ダ問題ガ起ル
思ヒマスガ、此規定ノ精神ハサウ云フヤウナ、アナタノヤウナ
意味デナクテ、多數辯論ノ場合ニ於テ、計畫シテヤルコトガ
相當デアアル、即チ多數ノ辯護人ガアリマスル場合ニ於テハ
必ズ事件ハ重大デアアル、或ハ複雑デアアルト云フコトデ、述ベ
ベキ點ガ頗ル多イデアリマス、デアアルカラ此規定ガアリマス
レバ、必ズ其多數ノ辯護人ハ、茲ニ計畫ヲ立テ、誰ハ何レヲ
擔當スルト云フコトデ、徹底シテ辯論ガ出來ルト思ヒマス、此
規定ガアリマセヌカラシテ、今日ニ於テハ各々自由ニ意見ヲ
述ベルデアリマス、其自由ニ述ベルコトヲ、少シモ制限スル
コトハ出來ナイ、出來マセヌカラ誰ト相談フル必要モナイノ
デ、各自被告人ノ爲ニ方針ヲ立ツテ辯論スル、即チ辯論ハ
徹底シナイコトニナル、例ヘバ之ヲ辯護人ガ五人アル場合ニ
於テ、要點ヲ區別シテ述ベマシタナラバ、裁判官モ十分ニ諒
解ガ出來マスシ、又述ベル方ニ於テモ、熱烈ニ述ベルコトガ
出來ヤウト思ヒマス、デアリマスカラシテ計畫シテ辯論ヲ爲
スベシト云フ精神ガ、是ニ依ッテ貫キヤウト思ヒマス、即チ法
文上カラ害ガ起ルト云フ點ハ、前ノ前段ニ御述ベニナク

ウナ點ハ面白クナイガ、サウ云フコトデナク、計畫シタル辯論
ヲ爲スベシ、斯ウ云フ意味デアリマスカラ、極メテ重要ナル規
定デ、裁判所側ニ於テモ、辯護人ノ側ニ於テモ、裁判官ヲシ
テ十分ニ諒解セシメルニハ、斯クシタ方ガ宜イ、此規定ガ無
ケレバ、相談スル譯ニモ行クマイ、相談スレバ宜イガ向フデサ
セナケレバ、何トモ仕方ガナイト思ヒマス

○宮古委員 是ハ餘程重要ナ事デアリマスカラ、モウ一ツ
聞イテ置キタイト思ヒマスガ、此規定ガ法律ニナク、曉ニ於
テハ、重複シテ爲スコトヲ得ズト云フデアリマスカラ、重複
シタト云フコトハ違法ニナル、非常ニ是ハ裁判官ニ干涉サレ
ルト云フコトニナルコトガ、今日カラ見エテ居リマス、ドノ程
度デ重複ト云フコトヲ言ハレカ、同ジ結論ニナルニシテモ、
同ジコトヲ言フテ行ク、併ナガラソレハ全部重複ト云フ譯デ
ナクテ、一部分重複ト云フコトニナルコトモアリマス、又結論ノ
違フコトガアルデモ、矢張同ジコトヲ言フテ、結論ニ入ルト違フ
ト云フコトモアリマセウシ、餘程困リハシマスマイカト思ヒマ
ス、何トカモウ少シ緩和ノ方法デ規定ノシヤウハナイモノデ
アリマセウカ、或ハ成ベクト云フヤウナ風ニデモスルカ、ドウモ
オ前ノ議論ハ重複ダト直グ言ハレテハ、殆ド辯護ガ出來ナ
イコトニナリハナイカト思ヒマス、又出來ルニシテモ辯護士
ガヤリ難クナル虞ガアル、折角被告人ノ辯護ヲシテモ、徹底
シナイヤウナ事ガ出來ハセナイカト思ヒマス、多數ノ辯護人
ガアル、重複シテ無暗ニ辯論サレテハカナハナイト云フ御趣
意カラ出テ居ルデセウカラ、尤ナ所モアリマスガ、何トカ調和
シナイト、此通りニ行クト、辯護人ガ困ル事ニナリハセヌカト
思ヒマスガ、何カ成タケ重複シナイヤウニト云フヤウナ趣意
ニ直ス方法ハ無イデセウカ

○山岡政府委員 此法文ノ事トシテ申上ゲルベキ事ハ、
前ニ述ベタ通りデアリマス

○鶴澤委員長 辯護人ガ重複シテ意見ヲ述ブル場合ハ、
之ヲ裁判所ガ差止メル、若シ衝突シテ意見ヲ述ブル時ハ、辯
護士ノ連帶責任——一體辯護士連帶ト云フヤウナコトヲ
此法案デハ考ヘテ居ルノデスカ、場合ニ依ルト重複モアリ衝
突モアル、重複ノ方ハ裁判所ガ都合ガ惡イカラ止メル、衝突
ノ方ハ止メナイト云フ其根柢ニ逆テ、辯護士ガ一體連帶
デアルカナイカト云フ事ガ、法文ノ基本トナルベキモノデア
ウト思ヒマスガ、其處等ハドウデスカ

○山岡政府委員 其處マデノ事ハ、此法文デ考ヘテ居ラヌ
譯デス、辯護士連帶ト云フコトニナリマシテ、衝突ノ意見ナ
ドハ述ベナイコトニナリマス、一層進ダコトニナリマシテ、
良好ナル結果ヲ收メルコトガ出來ララウト思ヒマスガ、衝
突ハ此條文ニ依ッテ制限スル譯ニハ參ラヌデアリマス

○鶴澤委員長 第三百五十二條——第三百五十三

條——第三百五十四條——第三百五十五條——第三百
五十六條——第三節公判ノ裁判、第三百五十七條——第
三百五十八條——第三百五十九條——第三百六十
條——第三百六十一條——第三百六十二條

○橫山委員 此規定ハ、先刻申上ゲマシタ三百三十八條
ソレカラ三百三十九條、其他ニモアツト思ヒマスガ、其關
係シテ居ル條文デアリマス、證據ノ何物デアアルカト云フコト
ハ是ハ大體學說ノ上デ分テ居ルコトデアリマスシ、ソレカラ
本案ノ主義ガ現行法ノ主義ト餘リ變ラナイト云フコトデア
リマスカラシテ、ソレハ能ク分リマスガ、本條ノ規定ニ基イテ
「有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之
ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ」大體現行
法ノ規定ト違ハヌデアリマスガ、第一ニ是ハ判決ノ形式ニ
モ影響スル、判決ノ形式ニ付テハ、從來ノ如キ用例デハ甚ダ
困ルト云フ議論ガ、在朝在野ヲ通ジテ屢、述ベラレテ居ルノ
デアリマス、デ司法當局ハ、從來ノ判決ノ形式ヲ將來モ襲
踏シテ行クト云フ御考デアリマスガ、又判決ノ形式ノ上ニ
一大變革ヲ加ヘルト云フ意味デアリマスガ、隨テ此三百六
十二條ノ規定ハ、現行法ノ二百三十三條ノ規定ト差違ガアル
カドウカト云フコトヲ、先ヅ大體ニ於テ承テ置キタイ

○山岡政府委員 此規定ハ現行法ノ二百三十三條ト何モ變
タ用語ハ無イデアリマス、字句ノ上カラ申シマスレバ、全ク
現行法通りデアリマス、ソコ問題トナッテ來ルハ、解釋問
題デアリマス、此判決ノ形式付キマシテ、如何ニスルカト云
フコトハ、御意見ノ如ク長ク論議セラレテ居ル問題デアリマ
シテ、司法當局ニ於テモ、今日ノ形式ヲ以テ満足致シテ居
ラヌデアリマス、如何ニカシテ此裁判トシテ最モ良ク理由
ヲ説明サレルヤウニシタイ、斯ウ云フ事ヲ考慮シテ居ルノデ
アリマス、デ此立案ニ付キマシテモ、ソレト此形式ヲ假ニ作
リマシテ、サウシテ色ミト論議致シタデアリマスガ、結局文
字ノ上カラ、現行法ヨリ變テ規定ヲ置クト云フコトガ出來
マセヌコトデ、此所ニ落付イタ條文ガ即チ本案三百六十二條
ノ第一項デアリマス、デ當局ト致シテ、今日ノ裁判ノ實際ニ
於キマスル形式ヲ以テ満足ハシナイデアリマス、改善スル
ト云フコトハ希望致シマス、而シテ如何ニ改善サレテ行カ
ト云フト、是ハドウモ實際ノ問題ニナリマシテ、殊ニ大審院
ノ裁判例ニ依ル所デアリマス、司法當局トシテハ、是非トモ
適當ナル進路ヲ開キタイト考ヘテ居リマス、唯序ニ申上ゲテ
置キタイコトハ、二項ヲ加ヘマシタコトガ、現行法ト變テ居ル
所デアリマシテ、今マデハ積極事實タケテ書イテ、直ニ證據
理由及法令ヲ適用シテ置イタニ止ッテ居ル、被告人若クハ
辯護人ニ依ッテ、其積極事實ハ無イモノデアアル、即チ犯罪ノ
成立ヲ阻却スル事由ガ斯々アル、又此刑ハ減ゼラルベキ事

アル、檢事ノ方ニ於テハ此刑ハ加重スベキモノデアルト云フ
主張ガアタリ時ニ於テモ、敢テ顧ミナイ、ソレヲ此案ニ於キマ
シテハ、サウ云フ重大ナル主張ヲ致ス場合ニ於テハ、之ニ付
テ裁判所ノ見地ヨリ判斷ヲ下シタル所ヲ示スデアリマス
カラ、是ガ即チ一步ヲ進メテ譯デアリマス、此規定ガアリマ
ス、自然ニ此規定ニ包含シナイ以外ノ主張ニ付テモ、實際
裁判官ニ於テ事案ノ輕重難易ニ從ヒマシテ、適當ナル場合
ニ於テハ、其判斷ヲ示スヤウナコトガ出來ルと思フ、今日
マデノ所ハ、現行法二百三條ニ示シタル如ク、積極方面
カラ犯罪事實ヲ示スニ止ルデアリマス、消極ノ主張ト
云フモノハ、毫モ顧ミラレナカッタ、是ハ甚ダ遺憾トスル點デ
アリマス、二項ヲ置イテ示シテ譯デアリマス

○横山委員 サウ致シマス、此現行法ノ二百三條ノ第
一項ノ末文ニ「且法律ヲ適用シ其理由ヲ付スヘシ」トアル、
而シテ本案ニハ「法令ノ適用ヲ示スヘシ」ト斯ウアリマス、ソ
コデ字句ノ上ニ於テノ相違ハ、現行法ニハ理由ヲ付スベシ
ト云フコトガ附イテ居リマス、本案ニハソレガ無い、其字句ノ
變更ガアルニモ拘ラズ、現行法ノ二百三條ノ一項ト、本案
三百六十二條ノ第一項ト相違ガナシト云フコトニナレバ、
現行法ノ其理由ヲ付スベシト云フ文字ハ、有テモ無クテモ
宜イ無意義ノ規定デアルト云フコトニ歸著スルノデスカ、果
シテサウデアリマス、言葉ヲ換ヘテ申セバ、本案ニ現行法ノ
如ク法律ヲ適用シテ其理由ヲ示スベシト云フ文字ヲ附ケナ
カッタ理由ハ、ドウ云フ點デアリマス

○山岡政府委員 是ハ證據理由、法律理由ト區別シテ申
セバ申セル譯デアリマス、註釋のニ申セバ現行法ノ方ガ精密
デアリマス、併シ法律理由ト云フ方ハ、法令ノ適用ヲ示スコ
トニ過ギナイ譯デアリマシテ、現今ノ實際ニ於キマシテモ、御
承知ノ如ク法令ノ適用ヲ示スダケデアリマス、何等ノ差
異ヲ此所ニ置ク積リハナイデアリマス

○横山委員 サウ致シマス、司法當局ハ此現時全國ノ
裁判所ニ行ハレテ居ル刑事判決ノ形式ニ満足シナイ、ソレ
デ改正シタイト云フ希望、即チ改善進步ヲ圖リタイト云フ
希望ガアルニモ拘ラズ、毫モ此二百三條ノ規定ニ改造ヲ加
ヘズシテ、單ニ字句ノ修正ヲシタニ止マツテ、根本のニ之ヲ改
正シナカッタト云フ理由ガ、私ニハ分ラナイ、其希望ガアルナ
ラバ、其希望ヲ實現セシムベク、此法律案改正ノ際ニ其計
畫ヲ爲サルト云フコトガ相當デアラウト思フ、ソレハドウ云フ
譯デアリマス

○山岡政府委員 其點ニ付テハ、前ニ述ベマシタヤウニ、非
常ナ努力ヲ拂フテ居ルデアリマス、デ色ニ研究シマシタ結
果、此第一項ノ如クニナツデアリマス、第一項ノミニシテ
第二項ガナカッタラバ、御説ノ如ク研究モ何モ無イデハナ

イカト云フコトニナリマス、ソコデ本案ハ第二項ヲ置キマシ
テ、民事訴訟デ申セバ抗辯ノ點デアリマス、其方面ニ向ツテ
ノ説明ヲシロト云フノガ蓋シ一進歩デアルト思ヒマス、此規
定ガアルカラ、唯犯罪事實ヲ認メテ、證據法律理由ヲ附ケ
テ有罪ヲ言渡スト云フニアラズシテ、此場合ニ主張サレタル
コトニ付テハ、斯々ノ主張ハアルケレドモ、其主張ハ斯ノ如キ
理由ニ於テ採用スルコトガ出來ナイノデアル、斯ウ云フ風ニ
ナルノデアリマス、隨テ疑ニ御述ベニナリマシタヤウニ、第二
項ニ包含シナイモノデモ、重要ナ事ハ必要ニ從テ判斷ヲス
ルヤウニナル、ソレデ漸次裁判ノ實際ノ改善ガ出來ルノデア
リマス

○横山委員 私ノ質問ノ言葉ガ足リナカッタデアリマス、
要スルニ本案ノ第二項ハ、是ハ多少文字ニ於テモ相違ガア
リマス、ケレドモ、多年在法曹ノ希望シタ條件ノ一部ハ容
レラレタコトニナル、此點ニ於テハ無論判決ノ上ニ非常ナ改
善ヲ施サレテ進歩ヲスルノデスカ、併シ是ハ裁判所ノ側カラ
見ルト、是ダケ負擔ヲ増加シタコトニナル、人民ノ側カラ見
レバ、洵ニ結構デアリマス、裁判官トシテハ、更ニ手數ヲ増
シタコトニナル、私ハ其意味ヲ聽イタノデナイ、私ノ承ルハ、
三百六十二條ノ第一項ニ於テ從來ノ現行法ノ二百三條
ノ規定ノ趣旨ヲ改造セザル結果、依然從來ノ形式ノ判決
ニ満足セザルヲ得ヌ點ガアル、其點ハ第二項ノ裁判所ノ負
擔ヲ増加シタ點ニアラズシテ、從來御承知ノ通り罪トナルベ
キ犯罪事實ヲ掲ゲ、サウシテ其下ニ此犯罪事實ニ照應スル數
十百枚ノ證據ヲ羅列シテ、サウシテ以上ノ證據ヲ綜合考
察シテ、前記ノ事實ヲ認定スト云フコトニナツテ居ル、ソコデ
ハ前ノ議會ニモ原君カラ御提案ニナツテ、大ニ議論ガアツタ
デアリマス、成程今ノ判決ノ形式、即チ犯罪事實トソレニ
照應スベキ澤山ノ證據ノミヲ列ベテ、サウシテ綜合考察シテ
之ヲ認定スト云フダケデハ、元來現行法ニ於テモ二百三條
ノ法律ノ精神ニ適合シテ居ラヌト云フノガ吾々ノ主張デ
アル、吾々ハ濫リニ證據ヲ澤山列ベテ判決書ノ龐大ニナル
コトヲ希望スル意味デハナイ、斯ノ如ク犯罪事實ヲ認定ス
ルニハ、斯ノ如キ證據ニ據ツタコト云フノナラバ、斯ノ如キ證據
ハ何ガ故ニ犯罪事實ヲ認定スルコトガ出來ルカト云フ、證
據ト事實ノ論理上ノ道程デスカ、此事實ト證據ガ連結シテ、
此事實ヲ認定スルコトノ論理ノ結果ヲ伺ヒタイ、ソレヲ今
日デハ犯罪事實ヲ書イタ證據ヲ列ベテ、サウシテ綜合考
察シテ認定スト云フコトニナツテ居リマス、徒ニ判決書ノ紙
數ヲ殖ヤシテ、斯ウ云フ風ニ證據ヲ列ベテ、判定事實トシテ
認定スル、併ナガラ考察ノ結果ノミヲ書イテ論理上ノ道程
ヲ示シテ居ラヌ、如何ナル理由ニ依ツテ此證據、此事實ヲ認
メタト云フコトノ結果ヲ見ルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ罪ガ

アル、實際ノ例カラ申シマス、金百圓ヲ盜シタト云フ事實
ガアル、而シテ其被告人ガ其百圓ト云フ金ヲ盜シタト云フ
コトヲ自白シテ居ル場合ニハ、百圓ヲ盜シタト云フ事實ヲ
吐イテ居ル、其證據ヲ以テ行ケバデスカ、是ハ直覺のニ單純ナ
事件デアリマス、判事ニシテモ、被告人ニシテモ、成程此
證據ガアレバ盜シタト云フコトハ分リマス、其ヤウニ事案ガ
單純デ、證據ガ單純ナ場合ハ宜イケレドモ、横領背任文書
偽造ト云フヤウナ複雑ナ事案ニ至ツテハ、澤山ノ證據ヲ列ベ
タ所ガ、今申シタ背任横領ト云フヤウナ犯罪事件ガアル場
合ニ、是等ノ事實ヲ論理ノ形式ニ合ハシテ認定スルト云フ
場合ニ、判決ヲ受ケタ者カラモ分ラナイ場合ガ屢、アルケレ
ドモ、裁判所ノ判斷ニ依ツテ、總テノ證據ガアルト云フノデア
リマス、大審院マデモ無事通過スルコトガ出來ルト云フ
コトガ現行法ノ弊害デアル、サウシテ是ガ裁判官書記ノ勞
力ヲ濫リニ費消スルコト云フコトハ、僕等ハ實際氣ノ毒ニ思
テ居ル、此二百三條ガ出來タ時分ニ、某大審院檢事ハ此
二百三條ヲ許シテ、二百三條ハ出來ルヒデアルト云フコト
ヲ言ハレタコトノアル位ノ法律デアル、ソレデアリマス、カ
ラシテ、第一項ノ規定ニ依ツテ、裁判官ノ負擔ヲ増加シタル場
合、ソレニ付テハ新ニ意見ヲ申上ゲルトシテ、何トカシテ第
一項ノ規定ヲモウ少シ改正ヲ致シマシテ、モト早ク簡單ニ
出來ルヤウニ、裁判官ノ勞力ヲ減少スル方法ハナイカト云
フコトガ質問ノ趣旨デアリマス、是デハ三百六十二條ノ規
定ニ依ツテハ、判斷スルコト云フ負擔ガ殖ヘテ居ル、現時行
レテ居ル判決ノ形式ヲ改造スルコトハ出來ナイと思ヒマス
ガ、三百六十二條ノ第一項ノ判決ノ改造ガ出來ルコトデア
レバ、其根據ハ現行法ノ二百三條ノ末文ニアル所ノ「理由ヲ
附ス」ト云フノ創ツタコトガ原因ニナル、此法律ノ意味ニ改
造ヲ施サレタコトガアルト云フコトガ前提ニナツテ居ナイ以
上ハ、現時ノ裁判ガ改造セラレテ、發達進歩スル結果ヲ見
ルコトハ出來ナイ、其處ヲ伺ヒタイノデアル

○山岡政府委員 其點ニナリマス、前ニ申シマシタヤウ
ニ、此第一項ノ出來マス前ニハ、餘程研究シタモノデアリマ
ス、ソレガ斯ノ如クニ落著イタノデアリマス、法文トシテハ、
デ最も相當デアラウト思ヒマス、即チ罪トナルベキ事實ヲ揭
ゲマシテ、サウシテ其事實ヲ認メタル理由ヲ説明スル、其認
メタル理由ヲ説明スルノデアリマス、證據ヲ引用シテ説明スル、
斯ウ云フコトニナリマス、即チ其事實ト證據ト結付ケテ、證據
ニ依ツテ其事實ヲ認メタル理由ヲ附スルノデアリマス、是
ガ即チ事實ヲ認定シタル經路ヲ示スト云フコトニナツテ居ル、
御意見ノ論理上ノ道程ヲ示スト云フコトニナル、此法文自
體ガ罪トナルベキ事實、其事實ヲ認ムル理由ヲ説明スル、其
理由ヲ説明スルニハ、證據ヲ引用セヨト云フノデ、全ク是ハ

事實認定ノ經路ヲ示スト云フコトニ解釋スルヨリ外ハナイ
ノデアリマス、ソレガ今日ノ實際ノ裁判例ガ、只今御説明ノ
ヤウナコトニナリテ居ルコトハ、最高裁判所ノ判斷デアリガ故
ニ、實際トシテハ斯ノ如クナリテ居ル、法律ヲ正解シタモノデ
アルヤ否ヤ、其點ニナルト云フト、大審院ノ判例ガ不當デア
ルト云フコトハ、私ハ此處デハ明言致シマセヌ、大審院ノ裁
判デアリガ故ニ、法ノ解釋トシテ今日從フベキモノデアルト
云フコトニナルカラ、今日斯ノ如クナリテ居ル、即チ本文ヲ立
案スルモノトシテ之ヲ述ブレバ、只今前段ニ述ベタ如クニシ
テ、御意見ノ通り論理上ノ道程、即チ認定ノ經路ヲ示スコ
トニナル、又運用ノ方面ニ於テ宜シキヲ得レバ立派ナ裁判
ニナルト思フノデアリマス、サウナルト云フト、今日ノ實際
ノ解釋ガサウナリテ居ルカラ、三百六十二條デハ、矢張同ジ
結論ニ陥リハセヌカト云フ、斯ウ云フコトモ御尤モニナルノ
デアリマスガ、併シソレハ矢張本案ガ成立致シタ場合ニ於テ
ハ、訴訟手續ノ一大革新ト申シテ宜イ程變ラグラウト思フ、
必ス相當ナル改革ニナルコトヲ信ジテ居リマス、尙ホ只今前
段ニ述ベマシタル意見ハ、此審議中ニ於ケル代表的ノ意見
デアリマス

○横山委員 ソレガ益、吾々ニ分ラヌノデアリマスガ、サウス
ト一ツ切テ伺ヒマス、第一現行法ノ二百三條ノ第一
項ト、ソレカラ本案ノ三百六十二條ノ第一項トハ、法文ノ
意味ニ於テ疑ガアルノデアリマスカ、無イノデアリマスカ、ソ
レヲ分ケテ伺ヒマス

○鶴澤委員長 横山君、速記ニ記ス便宜上、法文ヲ御讀
ミニナデハ如何デアリマスカ

○横山委員 現行法ノ二百三條ハ、刑ノ言渡ヲ爲スニハ
罪トナルベキ事實及ヒ證據ニ依テ之ヲ認メタル理由ヲ明
示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シト斯ウナリテ居ル、
而シテ本案ハ第一項ノ末文ニ於テ其理由ヲ付スト云
フ、此理由ト云フ點ノ形式デケデ、大體同ジデアル、ソコデア
ルカラ二百三條ノ一項ト三百六十二條ノ一項トハ、理由
ヲ付スト云フ理由ト云フ字ガ脱ケテ居ルデケデ、法文ノ
意味ニ於テ字ノ有ルノガ無イデケデアルト云フ結論ニナルノ
デアリマスカ

○山岡政府委員 文字及文字ヲ分限的ニ解釋スル意味
ニ於テ行ケバ、同一ナル結論ニ到達シナケレバナラヌ、ソコデ
此實際ノ運用ニナルト云フト、先ニ述ベマシタルヤウニ、經路
ヲ示スト云フコトガ最も適當デアル、サウ解釋シナケレバナラヌ
○横山委員 分リマシタ、然ラバ此理由ヲ付スト云フ理由
ト云フ字ヲ本案デ省イタノハ、法文ノ意味デ變更ハナイノデ
アリマスカ

○山岡政府委員 別段意味ヲ持ッテ居リマセヌ

○横山委員 サウスルト現行法ノ規定ノ下ニ出來テ居ル
今日ノ實際ノ判決ハ、當局ハ御承知ノ通り先刻カラ屢、申
上ゲタ、犯罪事實ヲ書イテ、其次ニ右事實ハ、一、被告人何
某ノ何々ノ陳述、二、證人何某ノ是々ノ陳述、以上ヲ綜合
考覈シテ之ヲ認ムト、斯ウ書イテアリマス、多少文字ハ違テ
居ルモ殆ド同ジデアル中ニハ綜合考覈ト云フ字ヲ少シ變
ヘテ、前記ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ認定スル、モット簡略ノ文
ニナルト云々ノ證據ニ依ッテ之ヲ認ム、デ綜合ト云フ字モ考
覈ト云フ字モ全部抜イテアル、要スルニサウ三通リニナリテ居
ル、ソコデ此現行法ノ二百三條ノ證據ニ依ッテ之ヲ認メタル
理由ト云フコトハ、證據ト事實ヲ聯絡スベキ論理上ノ道程
ヲ指スコトヲ要セザルコトデアッテ、單ニ證據ノ内容ヲ示セバ
宜イト云フ解釋ニナル、今申上ゲルヤウナコトデ、諄々シク三
十枚モ五十枚モアル爲ニ、全部ノ供述ヲ含シテ來ルト云フ
コトニナリマス、證據ト云フ上カヲ申シマス、誰々ノ訊問
調書ガ證據デアル、誰々ノ參考人ノ調書カ證據デアルト云
フヤウニ、其内容ノ供述全部ヲ引抜イテ來ナケレバナラヌト
云フコトニナル、現行法ノ二百三條ニハ、現行法ノ改正以
來、非常ニ調書ノ紙數ガ殖エ、裁判長ハ是ガ爲ニ非常ナ
ル勞力ヲ費シテ居ル、是ハ或程度マデ現行法ノ缺點デア
ルト言ハレテモ仕方ガナイ、所ガ現行法ノ下ニ行ハレテ居ル裁
判ノ形式ガ、此二百三條ノ解釋通りニ行ッテ居ルモノトシテ
本案ノ三百六十二條ノ第一ニ變更ガナイトスレバ、現行法
ノ下ニ於テ行ハレテ居ル煩瑣ナル事ヲ、本法ニ於テモ認
メナケレバナラヌ、本法ノ三百六十二條ノ變更ガナイト云フ
裏面ヲ言ヒマス、現行法ノ下ニ行ハレテ居ル判決ハ、全然
違法デアルト云フコトニナル、現行法ノ下ニ行ハレテ居ル
ガ正當デアルトスレバ、新法ニ於テモ同ジ判決ノ形式ヲ採
ナケレバナラヌト思フ、其處ヲ承リタイ

○山岡政府委員 其處ノ點デスガ、先程モ申上ゲタノデア
リマスガ、大審院ノ判例ニ依ッテサウナリテ居ルノデ、此判例
ガ不當デアルトカ正當デアルトカ云フコトハ、此席デ申上ゲ
ナイト申シマシタ、ソコデ此條文ニ戻ッテ申上ゲルト云フト、
認定ノ經路ヲ示ス、サウ云フコトニ解釋スベキモノデアル、斯
ウ云フコトヲ茲ニ明ニシタノデス

○横山委員 サウスルト證據ノ内容ハ示サヌデモ宜イコト
ニナリマスカ

○山岡政府委員 必要ナル程度ハ示シマス、示サナクテモ
宜イ時ハ示サナイ、要スルニ必要ナル程度ニ於テ事實ノ聯絡
ヲ説明スル、斯ウ云フコトニナリマス

○横山委員 然ラバ便宜上三百六十三條ノヲ一緒ニ致
スコトヲ御許シテ願ヒマス

○鶴澤委員長 三百六十三條ヲ併セテ議題ニ供シマス

○横山委員 サウスルト三百六十三條ハ御承知ノ通り、
區裁判所ニ於テ輕微ノ罪ノ言渡若ハ刑ノ免除ノ言渡ヲ爲
ス場合ニ罪ト爲ルベキ事實證據及法令ノ適用ヲ示スヲ以
テ足ルト書イテアル、即チ區裁判所デ輕微ノ裁判スル場合
ニハ、證據ニ依ッテ之ヲ認メタル理由ヲ示スト云フコトハ、單
ニ證據ヲ示セバ宜イト云フコトニナル、サウスルト事實問題
ニ當テテ御答辯ヲ願イタイノハ、區裁判所デ犯罪事實ヲ
示シテ、其事實ヲ書イテ項目サヘ示セバ宜イト云フコトニ
ナル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ明治三十二年ニ現行法ノ二百三
條ノ改正ニナラヌ以前ニハ、御承知ノ通り判決ノ形式ト云
フモノハ、前記ノ事實ハ證人何某被告人何某ノ供述ニ依
テ之ヲ認ム、斯ウナリテ居ル、即チ現行法ノ下ニ於テ行ハ
レテ居ルヤウニ、判決ノ上ニ證據ノ内容ヲ示スコトハ必要ガナ
カッタ、所ガ現行法ノ改正ガ出來テカラノ例ヲ以テ、此三百
六十三條ト比較シテ御答辯ヲ願ヒタイノハ、三百六十三
條ノ證據ト云フノハ、單ニ證據ノ外形ノミヲ示セバソレデ宜
シ、現行法ノ下ニ於テ行ハレテ居ルヤウニ、一々内容ヲ提
起スル必要ハナイノデアリマス、ソレヲ伺ヒテ置キマス

○山岡政府委員 三百六十三條ノ此條文ノ要求シテ居
ル所ハ、事實ヲ認ムルニ判斷上必要デアッテ證據ヲ記載スレ
バ宜イノデアル、内容ヲ示スコトハ必要デナイノデアリマス

○横山委員 分リマシタ、サウスルト二百六十二條ノ證據
ニ依ッテ之ヲ認メタル理由ト云フノハ、即チ證據ノ外形ノミ
デ、實際ノ證據ヲ記載スル證據ニ依ッテ之ヲ認メタル理由ト
云フコトニ當嵌ラヌト云フコトハ分リマシタガ、此三百六十
三條ノ場合ハ、證據ノ存在ヲ示セバソレデ宜シ、即チ現行
法ノ二百三條ノ三十二年ノ法律ト同様デアル、斯ウ云
フヤウニ了解ガ出來マス、ソコデ只今御説明ノ中ニアリマシ
タ三百六十三條ノ證據ニ依ッテ認定メタル理由ト云フコトハ、
内容ハ必要ノ程度ニ之ヲ局限シテ、其以外ニ判決ノ上ニ何
物モ示サヌ、即チ今日マデノ所デハ、先刻申上ゲタヤウナ、前
記ノ證據ニ依ッテ之ヲ認ム、前記ノ證據ニ依リ綜合シテ之
ヲ認ム、或ハ前記ノ證據ニ依リ綜合考覈シテ之ヲ認ム、此
綜合考覈シテ之ヲ認ムト云フ字ガ落チテハ違法デアル、是
ガ現行法ノ二百三條ノ證據ニ依ッテ之ヲ認ムト云フコトニ
ナリテ居ル、サウスルト綜合考覈ト云フコトハドウ云フ風ニナ
リマスカ、現時ノ裁判官トシテ判決ノ例文ヲ一ツ御示ヲ願
ヒタイ

○山岡政府委員 罪トナルベキ事實ハ、御承知ノ通り構
成要素デアリマシテ、構成要素ニハ主觀客觀ノ關係其他
附帶ノ條件ガアリマス、其條件ヲ一々指摘シテ、サウシテ此
點ハ證據ニ依ッテ是ガ認メラレル、此點ニ付テハ證據ニ依ッテ

之ヲ認メルコトが出来ル、此點ハ證據ニ依テ認メラレコトが出来ルコト云フ風ニ、事實トノ聯絡ヲ表示スルノデアリマス、斯ノ如クニシテ即チ心證ヲ描イタ所ノ經路ガ判決ノ上ニ現ハレルヤウニスル、必シモ内容ヲ書ク必要ナインデアリマス、ソノコトヲ明ニスル必要ノアル時ニハ、内容ヲ書ク場合モアリマス、書カナクとも直ニ分ルモノデアレバ、其證據ヲ示シテ其狀況ヲ認メル、斯ウ云フ風ニナルデアリマス

○横山委員 一寸分リ兼テ點モアリマス、サウスルト現行法ノ下ニ出來テ居ル判決書ハ、御承知ノ通り犯罪事實ガ單一デアル場合ハ適合シナイ、犯罪事實ガ複雑デアル、即チ四ツモ五ツモアル場合ニ、證據ヲ示スニ當テ、同時ニ裁判官ニ之ヲ一々分ケテ示シテ居ルノモアリマス、レドモ、此數個ノ事實ニ照應スベキ證據ノ全部ヲソコニ書イテ、ドノ證據ガ此事實ニ當ル、此事實ニ對シテドノ證據ガ適當デアルコト云フヤウナコトヲ判決ヲ見ルコトハ、餘リ亂雜ナコトヲシテ居ルモノト思フ、ソレハ大審院ガ通過スルノデアアルガ、今政府委員ノ説明ニ依ルト、第一ノ犯罪事實ニ付テハ是々ト、第二ノ犯罪事實ニ付テハ是々ト云フコトヲ明示スルト云フ意味デアル、サウ云フ風ニ解釋スルノデスカ

○山岡政府委員 其點ハ第一事實ハ此證據、第二事實ハ此證據ニ據ルト云フコトヲスル以上ハ、第一事實ノ中、此點ハ何々ニ依テ認メル、此點ハ何々ニ依テ認メル、從テ此罪ハ是ニ據テ認メル、斯ウ云フ風ニ行ク譯デアリマス

○横山委員 マア議論ハヨシマス、サウスルト裁判官ノ勞力ヲ非常ニ増加セシムル結果ヲ生ズルノミデ、判決ノ改善ニナラヌト考ヘマス、明日一ツ私ハ實際ノ判決例ヲ持テ來テ、ドウ云フヤウニスレバ宜イカ、實際ノ適用ヲ示シテ御尋スルコトニ致シマス、今日ハ打切テ置キマス、而シテ二項ニ移テ行キマス、第二項ハ是ハ在野法曹ノ多年ノ希望ヲ或程度迄容レラレタコトデアリマス、是ハ寧ろ感謝スベキ條文デアリマス、此第二項ノ規定ニ依テ、斯ウ云フ判斷ヲスベキ事項ヲ増加スルト云フコトハ、ソレハ宜イトシテ、是ニ對スル證據ハドウデス、ナクテモ宜シノデスカ

○山岡政府委員 罪トナル方面ヲ揭ゲマシテ、其證據ヲ示シテアルノデアリマス、是ハ罪トナラヌト云フ主張ヲ致シマスノデアリマス、證據上サウ云フ説明ヲスル必要ガアレバ、是ハ書ク場合モアリマセウケレドモ、多クハ證據上ノ必要ハ要ラナイデ、事實ノ主張ヲ否定スル説明ヲ致セバ宜シイ譯デアリマス、例ヘバ防衛行為デアルト云フ主張ヲシタ、斯ノ如キ主張ヲナスコトハ、此點ハ窮迫ノ事情アリト云フコトハ云ヘナイ、其事態ヲ認メテ居ルト云フ窮迫ナル場合ヲ書カナケレバナラス、故ニ防衛行為ナリト主張ハ認メラレナイ、斯ウ云フ風ニ、必シモ證據ヲ供示スルト云フコトニナリマセ

○鵜澤委員長 第三百六十四條

○横山委員 三百六十四條ハ現行法ト少シ變テ居ルト思ヒマス、元來證據ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ル、現行法ハ證據不十分ナルトキハ無罪ニスル、證據不十分ト云フ場合ハ、是ハ絕對ニ證據ノナキ場合ハアリマセヌガ、ドウモ有ルカモ知ラス、此證據ダケハ十分ト云フ場合ニ、無罪ノ裁判ヲシ、本法ニ於テハ犯罪ノ證明ナキトキ、斯ウ云フ犯罪ノ側カラ規定シテアリマス、其意味ハ現行法ノ意味ト相違ガナイノデアリマス、ソレヲ承リタイ

○山岡政府委員 ソレハ現行法ト變リハアリマセヌ、即チ一部分デモ證據ガ足りナイ以上ト云フモノハ、結局證據ガナイコト、同じ事デアリマス、本案ニ於キマシテハ、證據ト云フ字ヲ證明ト改メマシタ、サウシテ事實ノ認定ハ三百三十八條ニ證據ニ據ルト致シマシタ、ソレカラ三百三十九條ノ證據ノ證明力ハト云フ風ニシテ置キマシテ、ソレヲ承テ此處ニ持テ來マシタ、證明ナキトキト云フ風ニ、文字ヲ正シタ譯デアリマス

○横山委員 サウ致シマス、從來ノ判決書ハ御承知ノ通り、無罪ニナラヌモ——結論ハ無罪、無罪ト云フモノ、判決書ヲ讀ンデ見ルト、證據不十分デアルカラ無罪デアル、無罪ノ判決書ヲ持テ世間ヲ歩イデモ、證據不十分ダト云フコトデハ何モナラヌ、能ク判斷セラレテ居ラヌト云フ實ハ不滿ガアル、ソコデ此本條ノ適用ニ付テ、現實ノ被告人ノ權利利益ニ關スル問題デアリマス、承テ置キタイ、其判決ノ要旨ハドウナルカ、是迄ハ判決ノ主文ニ無罪トシテ、理由ニハ證據不十分デアルカラ無罪ニナルト云フノデアアルガ、本案ノ適用ヲスル上ニ於テハ、ドウナルカ

○山岡政府委員 ソレハ矢張文字ガ變テ參リマス、何々トノ公訴事實ハ、證明ナキニ依リ無罪トスル、斯ウ云フ風ニナリマス

○鵜澤委員長 第三百六十五條——第三百六十六條——第三百六十七條——第三百六十八條

○横山委員 是ハ先キニ一般ノ質問ヲナス場合ニ承ッコトニ關係ヲ致シテ居ラヌト思ヒマス、簡單ニ伺フ置キマス、被告人ガ陳述ヲ肯セス「ソレカラ、許可ヲ受ケスシテ退廷シ」此二ツノ場合ハ別ニ質問モアリマセヌ、其次ノ「又ハ秩序維持ノ爲メ裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得」此所ガ問題デアル、是ハ一般的ノ質問ノ場合ニ御聽キ致シマシタ、譬ヘテ見レバ此被告人ノ起立ヲ命ジテ起立ヲ肯ゼザル場合ニ、ドウナルカト云フ問題、簡單ニ此間申上ゲ置キマシタ通り、起

立ヲ命ゼザル裁判官モアル、ソレカラ命ジテ其命ニ應ゼザル場合ニ於テハ、ソレヲ放任シテ辯論ヲ進行セラレル裁判長モアルノデアリマス、ソレカラ命ジテ之ニ應ゼザルトキハ退廷ヲ命ジテ、而シテ不在ノ儘退席判決ヲ言渡スト云フ三ツノ例ガアル、而シテ此最後ニ申上ゲタ例、即チ起立ヲ命ジテ、起立ヲ肯ゼザリシ場合ニ退廷ヲ命ジテ、而シテ退席判決ヲ言渡シタ場合ニ、是ハ違法トシテ大審院ノ問題トナタコトモアルノデアリマス、是ハ其場合ヲ解決スル意味ニ出來タ法文ト思ヒマス、吾々ノ考ヘル所ニ依レバ、被告人ガ起立ヲスルカセヌコト云フコトハ、他ノ事情ガ伴フ時ハ別デアリマスケレドモ、起立ヲ命ジテ被告人ガ起立ヲシナイ、他ニ秩序ヲ紊ルベキ態度ガアリ、不當ナル言語ヲ發シタル場合ハ、秩序維持ノ爲ニ退廷ヲ命ジテモ、秩序ヲ紊ルモノトシテ已ムヲ得ヌトシテモ、裁判長ガ起立ヲ命ジテ、單ニ其命令ニ應ジナイ、靜肅ニ裁判長ノ訊問ヲ聞キ、靜肅ニ檢事ノ報告ヲ承テ居ル、立ツノ必要ナシト云フ信念カラ、起立ヲ肯ゼナイト云フ場合ニ、直ニ裁判長ガ秩序維持ノ權利ヲ振廻ハシ、之ニ退廷ヲ命ジ、而シテ之ヲ不在ノ儘退席判決ヲスルト云フコトハ、吾々ハ從來ノ慣例カラ申シテ、多少ドウカト考ヘル點モアリマス、レドモ、冷靜ニ考ヘテ見テ、斯ウ云フ場合ハ秩序維持ニ別ニ害ガアルモノデハナイト考ヘマス、殊ニ此彈劾主義ノ法律デアリマス、本案ニ於テモ現行法ニ於テモ、檢事ハ習慣上高い所ニ座ラテ居リマス、彈劾主義ニ依テ此制度ヲ設ケテ、彈劾ノ機關トシタト云フニ過ギマセヌ、訴訟ノ形式ノ上カラ申シマス、檢事ガ被告人辯護人ト席ヲ異ニシテ、一番高い所ニ居ラナケレバナラヌト云フコトハナ

イ、辯護人被告人ノ席ヲ高クスルカ、或ハ檢事ノ席ヲ低クシテ、對等ノ位置ニ置イテ然ルベキモノデアル、是ハ法律改正ヲシナイデモ、司法行政ノ力ニ依テ、ドウヤウニモナルト云フ聲明ヲ得テ居リマス、ソレ程ノ輕微ナ事項ニ拘ラズ、今申シタヤウナ退廷命令ヲ發シテ——起立ヲシナカッタト云フ一事ニ依テ、法廷カラ被告人ヲ拉シ去テ裁判ヲスルト云フコトハ、宜クナイト思フ、三百六十八條ノ適用ハ、此處マデ觸レルノデアリマス、ソレヲ承リタイ

○山岡政府委員 此規定ヲ置キマシタ趣旨ハ、關席判決ヲ止メタコトハ、前ニ既ニ御議論ニナッテ済ンデ居リマス、關席判決ニ止メテ、被告人ガ在廷シナケレバ公判ガ開ケナイ、斯ウ云フコトニ規定シテアリマス、被告人ガ在廷シテ陳述ヲシナイトキ、或ハ許可ヲ受ケズシテ退廷シタトキ、或ハ裁判長ヨリ職權ニ依テ退廷ヲ命ゼラレタ場合ニハ、是ダケノ例外規定ヲ置イタノデアリマス、只今御説明ノヤウナ事ヲ、此處デ特ニ考慮シタノデアリマス、要スルニ許可ヲ得ナイデ自カラ退キ、職權ヲ以テ退廷ヲ命ゼラレタトキニ於

テハ、陳述ヲ聞カナイテ判決ヲスルコトニナリマス、從テ其適用ハ只今御説明ノ中ニ、裁判長ニ於テ退廷ヲ命ジタ場合ダケハ之ニ這入ラズ、來ルノデアリマス、退廷ヲ命ジナイテ被告入グ起立ヲ肯シ、肯シザル結果、陳述モシナイト云フコトニナレバ、ソレハ前段ニナリマス、サウ云フ次第デ、退廷ヲ命ジタコト云フコトガ不當デアルヤ否ハ別問題ト致シマシテ、退廷セシメタ以上ハ、此規定デ裁判ハ出來ルノデアリマス、唯御説明ノヤウナ場合、退廷ヲ命ズル當否ニ付テハ、自ラ別論デアリマシテ、實際問題トシテ適當ニ扱ハナケレバナラヌコトデアラウト思ヒマス、今迄ノ事ノ當否ニ付テハ、各場合ニ考慮シナケレバナラヌト思ヒマス

○横山委員 サウスルト、結局ハ起立ヲ命ジテ退廷ヲセシメルヤ否ヤ、其他ノ手續ヲ執ルコトハ、個々ノ事件ニ付テ判斷シマス、秩序維持ニ付テ裁判官ノ範圍ヲ承リタイ、私ハ場合ヲ制限シテ申シマス、單ニ起立ノ命令ニ應ゼザル場合——不當ナル言語ヲ發スルコトカ、不當ノ態度ガアルコト云フ場合ハ別デ、唯檢事ノ報告ダカラカモ前立テ、其命ニ應ジナイデ靜肅ニ座ラテ居ルト云フ場合ヲ制限シテ申シマス、斯ウ云フ事ハ法廷ノ有様カラ見テ、別ニ秩序ニ害ハナイ、ソコデ此三百六十八條ノ裁判長ガ持テ居ル秩序維持權ニ付テ疑ガ起ルノハ、私ノ考デハ裁判長ノ持テ居ル秩序維持權、常ニ訴訟ノ進行ヲ注意シテ、犯罪審理ヲ終ルコトガ出來ルト云フ指揮權ニ何等影響ガナカッタラバ、別ニ裁判所ノ秩序ハソレ以外ニハナイ譯デ、裁判ヲスルニ、被告ガ妨害シテ法廷ヲ開ケヌ、檢事ノ訊問ヲ妨ゲル、檢事ガ辯論スレバ、被告ガ不當ナル言語ヲ發シテ妨害スルト云フコトデハ、裁判長ノ訴訟指揮權ヲ維持シテ往クコトハ出來ナイ、茲ニ始メテ法廷秩序維持權ガ生ズル、此違法ナ状態ヲ除去スル強制力ヲ持タナケレバナラヌト云フコトニナルト思フ、ダカラ訴訟指揮權ニ關係ナクテモ、尚ホソレ以上ニ何物カ保護セザルベカラザル必要ガアルトカ、私ハ檢事被告人辯護人ガ、法律手續ニ依テ立會シテ、訴訟手續ヲ平和ニ靜肅ニ行テ往クコトガ出來ル以上ハ、法廷ノ秩序ノ維持ガ出來ルト思フ、其進行ヲ妨害シテ、始メテ裁判長ガ其違法ノ状態ヲ戒飭セントシテ強力ヲ用フル、斯ウ云フ限局シタル狭キ意味ニ解釋スベキモノト考ヘル、デアルカラ若シ出來ルナラバ、秩序維持ノ權利ノ定義ヲ與ヘ、實際ニ毎日頻繁ニ行レル規定デアリマスカラ、其適用モ考慮シテ戴キタイト思ヒマス

○山岡政府委員 其秩序維持ト云フコトハ、如何ナル範圍ニ及ブカト云フコトハ、是ハ構成法ノ問題デアリマシテ、此處デハ範圍ト云フコトハ考ヘテ居ラヌノデス、構成法上ノ權利ヲ以テ、裁判長ガ退廷ヲ命ジタトキニ、ドウスルト云フコトダケ豫想シテ、秩序維持ノ範圍ハ構成法デ極リマス、此處デハ極シタ範圍ニ屬スルモノデアリマス、唯今日マデノ取扱ガ適當ナルヤ否ヤ、各場合ヲ考慮シナケレバナラヌト云フコトヲ申シマシタノデ、此處ハ何モ廣クモ狭クモナッテ居リマセヌ

○横山委員 ソレハ唯此秩序ノ維持ト云フ文字ノ當否ヲ申シタノデアリマスカラ、ソレデ宜シイガ、併ナガラ是マデナカタ文字ガ刑事訴訟法ノ上ニ現レタ、是ガ現實事件ニ適用サレル結果ヲ見マスカラ、裁判所構成法ニドウ云フ規定ガアルカハ別問題トシテ、兎ニ角本案ニマデ書イタ秩序維持ノ説明ヲ承リタイ

○山岡政府委員 ソレハ構成法ノ秩序維持ノ範圍ヲ此處ニ借り來タニ過ギマセヌ、此處ニハ新シキ何等意義ヲ持タマセヌ

○鶴澤委員長 第三百六十九條——第三百七十條——第三百七十一條——第三百七十二條——第三百七十三條——第三百七十四條——第三百七十五條——第三百七十六條——第三百七十七條——第三百七十八條——第三百七十九條——第三百八十條

○横山委員 第三百八十條ニ從來屢ノ問題ニナッテ居ル事項ニ關係スルト思ヒマスガ、「被告人ノ法定代理人保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得」是ハ説明サヘ求メテ置ケバ宜シイ、其妻ヲ除外シタ理由、何カ別ニアルカドウカ

○山岡政府委員 此處ニダケ別ニ理由ハアリマセヌガ、外ノ所ト大體同ジ意味デアリマス

○鶴澤委員長 第三百八十一條

○横山委員 是ハ第三百八十一條ニ原審ニ於ケル代理人、此點ハ質問ハアリマセヌガ、又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得「此規定ハ現行法ノ意味ト違フノデアラウト思ヒマスガ、果シテサウデゴザイマスガ

○山岡政府委員 現行法通りデ、御意見通りデアリマス

○鶴澤委員長 第三百八十二條

○横山委員 是モ文字ハ異ンテ居リマスガ、現行法ト違フ所ガアルノデアリマセウカ

○山岡政府委員 現行法通りデアリマス

○鶴澤委員長 第三百八十三條——第三百八十四條——第三百八十五條——第三百八十六條

○横山委員 「上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スベシ」之ハ其上訴期間中ノ問題ノミニ係ルヤウニ私ハ解釋シマスガ、尚ホ外ノ意義ガアリマセウカ

○山岡政府委員 ソレハサウ云フ結果ニナリマスデス、上訴期間ヲ經過致シマスレバ、上訴權ハ消滅致シマス、結局期間内ニ於テアルコトガ出來ルダケニ止ラテ居リマス

○鶴澤委員長 第三百八十七條——第三百八十八條——第三百八十九條——第三百九十條——第三百九十一條——第三百九十二條——第三百九十三條——第三百九十四條——第三百九十五條——第三百九十六條——第三百九十七條

○横山委員 控訴提起ノ期間ガ長クナッタト云フコトニ付イデハ、是ハ人權ノ側カラ觀察シテ異存ハアリマセヌ、異存ハアリマセヌガ、外ノ期間ハ短縮スルト云フヤウナ傾向ニナルダラウト思ヒマス、里程ノ如キハ短縮シテ居ルガ、控訴期間ヲ延長シタル理由ハドウ云フ譯デスカ

○山岡政府委員 里程ヲ短クシタノハ、交通ノ開ケマシタガ爲ニ短クナッタノデ、此上訴ノ爲ニ十分ナル考慮ヲシテ、無益ナル上訴ハ避ケルノガ宜シイ、斯ウ云フ意味デアリマシテ、控訴上告共ニ延バシテアリマス

○宮古委員 控訴ノ期間ハ七日デスガ、此進行ハ三百八十三條デハ、裁判告知ノ日ヨリ進行ストアリマス、是ハ被告人ガ關席デアッテモ同ジ事デ、唯裁判官ガ告知サヘスレバ、本人ノ居ルト居ラナイトハ問ハズ告知スト、斯ウ云フノデスカ

○山岡政府委員 上訴ノ提起期間ハ告知ノ日ヲ以テ進行致シマス、告知ノ方法ニ付テハ、前ニ規定ガアリマスカラ、其告知ノ方法ニ依テ致シマシタ以上ハ、其日カラ進行致シマス

○宮古委員 上訴ハ此被告人ガ出席シテ居ルト否トヲ問ハズ、裁判官ガ告知スレバ、其日カラ進行シテ行クト云フノデスネ

○山岡政府委員 退席判決ノミデアリマスカラ、大體サウナリマス、唯裁判告知ト云フコトハ、宣告トハ多少違ヒマシテ、之ハ前ノ方ニ裁判ノ告知ハ如何ナル方法デ爲スカト云フコトハ規定ガアリマス

○鶴澤委員長 第三百九十八條——第三百九十九條——第四百條——第四百一條

○横山委員 四百一條ハ之ハ附帶控訴ノ問題デアリマスガ、控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトガ出來ルガ、之ハ現行法ノ趣旨——大體ニ於テ同ジデアラウト思ヒマス、檢事ガ附帶控訴ヲ爲スコトノ出來ル規定デアリマスカラ——唯其所ニ問題トナルノハ、檢事ハ附帶控訴ノ權利ガアルガ、檢事ガ控訴シタル場合ニ、被告ノ側ニ附帶控訴ヲ認メザル理由、又認メテ居ル條文ガアルナラバ、其條文ヲ御示シテ願ヒタイ、即チ被告人ノ側カラ附帶控訴ヲスルコトガ出來ルノデアルカ、出來ヌノデアルカ、出來ヌナラバ其理由、斯ウ云フコトニ歸著スルノデス

○山岡政府委員 此點ハ現行法デハ許サナイ、檢事ガ上

訴致シマスレバ、被告人ノ爲ニ不利益ナル裁判ヲナスト云フコトヲ目的トスルノ主デアリマス、併シ利益ノ主張モ檢事ハヤリマスカラ、此意味ニ於テ檢事ノ上訴ガアツタ時ニ、被告ニ對シテ附帶控訴ヲ許ス必要ハナイ、檢事ガ被告ノ利益ノ爲ニ辯護ノ方ガアリマシタ場合ニ於テハ、無罪ノ言渡モ出來ルノデアリマスカラ、隨テ附帶控訴ト云フモノハ必要ガナイト思ヒマス

○横山委員 其所ガ私ニハ諒解ガ出來ナイ、譬ヘテ言ヘバ本法ニ於テ控訴期限ガ二日モ延ビテ居リマスカラ、其所デ能ク考慮スレバソレデ宜イ譯デアアルガ、併ナガラ人ニ依テハ控訴ハシタイケレドモ、ドウモ其他ノ事情デ控訴ヲシタクナイ、斯ウ云フ場合モアル、熟慮ノ結果、控訴ヲシタ所ガ、全部ノ事件ニ付テ、即チ判決ノ全部ニ對シテ控訴ヲ致シテ居ル場合ハ、或ハソレデ宜イカモ知レマセヌガ、爭ガ澤山アル場合、一部ノ控訴ヲシテ居ルケレドモ、此點ダケハ控訴シタクナイト云フノデ、分割シテ控訴ヲシタル場合、此點ハ控訴シナカッタデアアルガ、偶、檢事ガ控訴シタナラバ、自分モ今度ハ一ツ附帶控訴ヲシテ爭テ見タイト云フ場合、其場合ハ一ツ御答辯ヲ願ヒマス

○山岡政府委員 サウ云フ場合ニ於キマシテハ、控訴ヲシナイ部分ハ期日ノ經過ト共ニ確定シテ仕舞ヒマス、仕舞ヒマスカラ、上訴ノ審理ノ目的ニハナラナイ、故ニ之ニ對シテ裁判ニ付テ特別ナル上訴ヲ許サヌノデ、其點ハ檢事ノ方ノ上訴ガ一部ニ限ラレテ居リマスカラ、檢事サヘ主タル控訴ヲシタル際ハ、何等ノ上訴モ出來ナイノデアアルガ、被告側ニ其點ガ出來ルニ云フ譯ニハ行カナイ、一方ガ控訴スレバ其確定狀態ニナリマスカラ、其場合ニ於テハ附帶控訴ヲ爲ス必要ガナイ、附帶控訴ト云フモノハ、罪ヲ重クスルト云フ必要ニ出ルノデアリマス、被告側ニ取テハ、全ク其必要ガナイノデアリマス、此規定ナシニ被告ノ満足ハ得ラル、ノデアリマス

○宮古委員 檢事ガ控訴シテ、被告人ガ主タル控訴ヲシナカッタ、其所デ控訴ノ場合ニ於テ、被告人ガソレニ確定シタト云フベキモノデアラウカ、主タル控訴トシテハ控訴シナカッタガ、一部分ニ對シマシテ附帶控訴スルト云フヤウナコトハ、事實ニ於テアリ得ベキコト、思ヒマスガ、サウ云フ場合ニハ如何デス

○山岡政府委員 其點ハ許スベキモノデナイ、主タル控訴ヲ爲ス人サヘ一度控訴ヲ致シテ居リマスレバ、他ノ控訴ハ確定スルノデアリマスカラ、主タル控訴ハ不服ノ言ハナイコトガ、即チ從タル控訴ハ出來ルト云フ譯ハナイノデアリマス、即チ一部ハ既ニ絕對ニ動カスコト、出來ナイ確定力ヲ持ツノデアリマス

○宮古委員 尙ホ一寸伺ヒマスガ、只今ノヤウナ場合ニ冤ニ角一審ノ判決ガアツタガ、ソレニ對シテ被告ハ控訴ハシナカッタ、然ル所檢事カラ控訴サレタ、ソコデ檢事ガ全部ニ付テ控訴スレバ、全部ガ控訴ノ問題トナル、檢事ガ全部ヲ控訴シナイデ、其一部分ダケ控訴シタト云フ場合ニ、被告人ガ自分ノ方デ控訴シナカッタ所ヲ附帶控訴ニスルト云フコトニ付テ、サウシテ今度一審ノ判決ノ全部ニ對シテ控訴審爭フト云フヤウナコトハ、出來ルコトニシテ置ク方ガ便宜ノヤウニ思ヒマスガ、如何デアリマスガ

○山岡政府委員 訴訟ノ目的物外ノコトデアリマスカラ、訴訟手續トシテハ、出來ナイコトデアリマス、詰リ訴訟ノ目的物ト云フモノガ決テ仕舞フ、一部分ハ確定シテ、訴訟ノ目的物ニナッテ居ルノデアリマスカラ、ソレヲ控訴デ附帶スルト云フ問題ハドウシテモ出ナイ

○宮古委員 尙ホソレヲ出來ルヤウニシテモ、敢テ差支ナカラウト思ヒマスガ、冤ニ角一審デハソレガ問題ニナッテ判決ニナッテ居リマス、唯被告自身カラハ控訴シナイ、檢事ガ控訴シタ以上ハ、矢張自身ハ控訴スル意見ガナカッタケレドモ、檢事ガ控訴シタ以上ハ、一緒ニシテ判決ヲ得タイト云フノデ以テ、附帶控訴ヲ爲スコトガ差支ナカラウト思ヒマスガ

○山岡政府委員 其點ガ現行法ヨリモ一歩進メテ、一部分ガ控訴サレタナラバ、全部ヲ一番ノ效力ヲ附帶スルト云フ條件ニカケテ持タセル、斯ウ云フ事ニナルノデス、併シ兩方共異論ノナイ確定シテ居ルモノヲ、更ニ動カスト云フコトハ少シモ必要ノ無イコトデアラウト思フ

○宮古委員 政府委員ハ必要ガ無イト仰シヤルガ、被告カラ言ッタル餘程必要ガアルコトデアルト思フ、檢事ガ控訴シナカッタナラバ、甘ジテ仕舞ウト云フノモ被告ガ、檢事カラ控訴サレタ以上ハ、ドウセ今度ハ裁判ニ繫ルノデスカラ、シテ以上ハ一審デ控訴シナカッタモノノ對シテ附帶控訴ヲシテ第一審通リニ控訴ヲシタイト云フモノハ幾ラモアルダラウト思ヒマス、ソレヲ許シタ所ガ、敢テ差支ナカラウト思ヒマス

○山岡政府委員 ソレハ結局意見——議論ニナリマスガ

○宮古委員 議論ニナレバ致方ナイ

○横山委員 斯ウ云フ場合ハドウシタルノデスカ、刑ノ言渡ガアツテ、サウシテ被告ガ場合ニ服シテ居ルニ云フ場合ニ、檢事ガ輕イカラト言ッテ控訴スル、サウ云フ場合ニ、一審ニ於テハ被告ハ全然無罪ヲ主張シテ居ッタ檢事ガ、今度ハ無罪ヲ主張スルト云フ場合ヲ含マヌノデアリマスガ

○山岡政府委員 其場合ニハ、無罪ノ主張ガ出來マス、デカラ別ニ控訴ト云フ手續ヲシナイデ主張ガ出來マス

○横山委員 ソレハ形式ニ於テハサウデスケレドモ、被告人ガ一旦無罪ノ主張ヲ致シテ居ッタモノヲ、判決後ニソレヲ

承認シテ、檢事ノミガ、是ガ重イトカ輕イトカ言ウテ、申シテ居ル場合ニ、理窟トシテハ無罪ニナルカモ知レマセヌガ、元來裁判所ト云フモノハ、訴ヲ聞イテ裁判スルノガ彈效スル所以デアリ、又原則デアル、而シテ一審ノ手續ヲ繰返シテ繼續スル繼續審デアル、矢張サウ云フ思想ハ繼續シテ行クト思ヒマス、サウスルト先刻申上デマス通り、之ニ服スル者ハ洵ニ遺憾デアル、費用其他ノ關係上已ムヲ得ズト云フコトデ、涙ヲ揮ッテ服シテ居ル場合モアル、サウ云フ場合ニ、偶、檢事ガ控訴シタ、併シ無罪ノ控訴ヲシテ呉レヌ、却テ重クシテ呉レト云フコトヲ控訴シタ、然ラバドウシテモ自分ガ行ッテ爭フト云フ場合ニ、控訴ノ形式ヲ認メテ許サヌト云フコトヲ、法律ノ規定ノ精神カラ言ヘバ、無罪ノ裁判ヲシテモ宜イケレドモ、裁判シタ宜カラウト云フヤウナ弊害モアラウカト思ヒマス、此故ニ現行法ニ於テハ認メテ居ッタ筈デス

○山岡政府委員 其點ハ全ク形式上ノ問題ダケデアリマシテ、實質ニ何等ノ問題ガアリマセヌ、重罪ニ限ッテ調べルト云フヤウナコトニナリマスレバ、此特別ナル主張ヲシナケレバ調ベナイト云フコトニナルノデアリマス、ソコデ實益ガ出來ルノデアリマス、控訴ニ於テハ覆審主義デアリマスカラ、全然事件ヲやり直スノデアリマス、檢事ガ一審ノ事實ノアルモノハ權利ヲ與ヘテやり直シマス、やり直シマシテ一審ヲ繰返スノデアリマスカラ、ソコニ行ッテ控訴ノ手續ヲ取ルト云フコトハ、全ク實益ノ無イコトデアリマス

○禱委員 サウシマスルト、檢事ガ認メル前ニ控訴ヲシテ居リマシテ、ソレカラ矢張控訴ノ期間中ニ被告人ガ重イト見テ、檢事ハ輕イト見テ、ソレデ先ニ檢事ガ控訴ヲシテ居リマシテ、矢張同ジ期間中ニ被告人ガ之ニ附帶スル事件ガ出マシタト假定シマスレバ、其期間經過後、檢事ガ其控訴ヲ取下デマシタ場合ニハドウナルノデスカ

○山岡政府委員 サウ云フ場合ハ、附帶控訴ハ本案ニ於キマシテハ控訴ニナッテ、控訴裁判所ノ檢事ガ附帶控訴ヲ爲スト云フコトデアリマスカラ、餘程距タ事柄デアリマス、併シソレガドウナルカト申シマスレバ、期間内ニ爲シタ控訴デアリマスルト、ソレハ特別ノ控訴ト見ルヤ否ヤガ問題ニナル、附帶控訴ヲスルト書イテアリマシテモ、サウ云フ風ニ現行法ニ於テモ格段ナル區別ハナイノデアリマス、唯サウ云フ主張ヲ致セバ宜イノデアリマスカラ、サウ云フモノハ獨立控訴ト解釋スルノデアリマス

○禱委員 獨立ノ控訴ト見ルコトガ出來ル、ソコデサウ致シマスルト、檢事ダケヲ認メナイデ、上告ト同ジニ上告ノ解釋ニハ確カ書イテアツタト思ヒマスガ、四百二十六條ニアル通り附帶控訴ガ出來ル、被告ノ爲シタ期間中ニ爲シタモノハ獨立ノ控訴ト見做シ、控訴ニ入レヌト疑ガ生ズルコトガア

リハセヌカト思ヒマス

○山岡政府委員 其規定ハドウモ必要デナカラウト思ヒマス、形式ガ定メテアリマスレバ、何トカ規定シナケレバナラヌ、形式ノ無イ以上ハ、不服ノ主張ハスレバ宜イト云フコトヲ書イタカラ、ソレデ無効ニナルト云フコトハアリマセヌ

○宮古委員 現行法ノ二百五十九條ニハ「控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得」斯ウ書イテアリマスカラ、附帶控訴ト云フモノハ、判決マデ被告モ出來ルコトニ規定シテ居ルヤウニ思ヒマスガ、此趣意ト今度ハ本案デハ變テ意味デ改メタノデアリマセウカ

○山岡政府委員 現行法ニ於キマシテハ、第一審ノ關係者ガ附帶控訴ガ出來ルト云フコトカラ出テ居ル、ソレデカラ此相手方ト云フ文字ヲ使ヒマシタ、兩方トモ含シテ居リマス併シ此案ノ趣意ハ實際ノ必要ニ顧ミマシテ、覆審主義ヲ採リテ居ルノデアリマスカラ、第一審通リノ調ベノ出來ル場合ニ於テ、之ニ格段ナル複雑ナル規定ヲ置ク必要ガナイ、檢事ノ附帶控訴ヲ置キマセヌト云フト、控訴審ニ於テ被告ノ不利益ナル判決ヲ爲スコトヲ得ズ、斯ウ云フ原則ガ一ツアルノデアリマス、ソコデ第一審ヨリ重クシナケレバナラヌト云フ場合ニ於テハ、檢事ノ附帶控訴ガナケレバ、覆審ト云フコトガ完全ニ行カヌノデアリマス、ソコデ被告人ノ不利益ノ判決ヲシテハイケンイト云フ規定ガ無ケレバ、此附帶控訴ノ規定ハ要ラヌノデアリマス、サウ云フ原則ハ現行法通リ本案モ認メテアリマスカラシテ、ソレデ此規定ヲ必要トスルノデアリマス

○宮古委員 ハッキリ分リマセヌガ、現行法ノ二百五十九條ニ依テスレバ、控訴ノ場合ニ於テ、被告人モ附帶控訴ガ出來ルト云フコトハ、アタタノ方デモ御解釋ニナッテ居ルノデスカ、ソレハ出來ナイト云フ御意見デスカ

○山岡政府委員 是ハ相手方デアリマスカラ——被告人モ相手方ガアリマスカラ、是ハ出來ルト云フコトニ解釋ガ出來マス

○宮古委員 サウスルト先刻御尋シタヤウナ場合ニ於テ、詰リ檢事ダケガ控訴シテ、被告人ガ控訴シナカタ、然ル所、檢事ノ控訴ガアル以上ハ、被告人モ矢張控訴ヲシタイ、期間ガ失シテ居ル後デアリマスガ、附帶控訴ヲシタイト云フコトデ、附帶控訴ヲスルコトハ、現行刑事訴訟法ノ方デハ許シテ居ルモノト御解釋ニナリマスガ

○山岡政府委員 ソレハサウデス、ソレデ本案ニ於キマシテハ、斯ノ如キ無用ナル規定ヲ置カヌノデアリマス、ソレデ此必要ナル場合ダケ、僅ニ控訴裁判所檢事ダケデス

○宮古委員 サウスルト、現行法ハ先刻横山君ノ問ハレタヤウナ、刑ガ輕過ギルト云テ、檢事ガ控訴シタト云フヤウナ

場合ニ、被告カラ附帶控訴ヲスル、是ハ一體要ラヌコトデアルカラ、サウ云フ事ハスルニ及バヌ、ダ、現行刑事訴訟法ノ二百五十九條ハサウ云フ所ヲ規定シタノデアッテ、サウ云フ事ハ必要ガナイノデアル、現行法ニ於テモ、先刻私カラ尋ネタヤウナ別個ノ事件ニ於テ、他ノ一點ニ付テ檢事ノ控訴ガツタ場合ニ、被告人ガ其他ノ一點ニ付テ附帶控訴ヲスルト云フコトハ、現行法ニハ含シテ居ラヌ、斯ウ云フ趣意デアリマスガ

○山岡政府委員 其點ハサウ解釋スベキモノデアルト思ヒマス、一部ハ既ニ確定シテ居ルノデアリマスカラ、確定シテ後ニハ主張スルコトガ出來マセヌ、期間内ニアリマスレバ、ソレハ出來マスアレドモ……

○宮古委員 刑事訴訟法案ノ四百一條ハ、二百五十九條トハ、結局ノ意味ニ於テハ何モ變リハナイト云フノデアリマスガ

○山岡政府委員 其通りデアリマス

○鶴澤委員長 第四百二條——第四百三條——第四百四條——第四百五條

○横山(勝)委員 此四百五條ハ、現行法ト同趣旨ダト思ヒマスガ、即チ不利益變更ヲ爲スコトガ出來ナイト云フ規定デアリマス、是デ一ツ承リタイコトハ、被告人ガ控訴審ニ於テ有罪ノ言渡ヲ受ケタ、サウシテ大審院ニ上告ヲシタ、而シテ大審院ニ於テ其控訴判決ヲ破毀シテ、他ノ裁判所ヘ移送シタ、其移送セラレタル裁判所ハ前ノ控訴院ノ判決ニハ拘束サレル理由ハアリマセヌ、即チモウ破毀ニナッテ居リマスルカラ、ソコデ矢張此第一審ノ判決ヲ目當トシテ、裁判ヲスル譯デアル、此場合ニ斯ウ云フ問題ガ起ッテ來マス、實例カラ申シマスレト、板橋ノ五人殺ノ事件、是ハ第一審デ死刑ノ裁判ヲ受ケタ、ソレデ東京控訴院デ無期刑ニナッテ、ソレヲ上告致シマシタ所ガ、無期刑ノ裁判ガ破毀ニナッテ、名古屋控訴院ニ移送サレタ、名古屋控訴院ハ第一審判決ヲ認可シテ、控訴棄却ノ裁判ヲシタ、即チ死刑ノ判決ヲシタ、斯ウ云フ場合ニ、此不利益變更ノ趣旨ヲ擴張スルコトハ出來ナイカト云フコトガ、私ノ質問スル趣旨デアリマス、是ハ此實際上ノ事例カラ御探究ヲ煩シタイ、何故サウ云フ事ヲ申スカト云フト、死刑ニナッテ、ソレカラ二審デ漸ク首ガ繫ンテ居タ者ガ、被告ノ利益ノ爲ニ許シタル上告ヲ爲シタルガ爲ニ、偶、上告ノ目的ヲ達シテ、破毀シテ他ノ裁判所ニ行ッテ、今度控訴棄却ノ裁判ヲ受ケルコトニナルト、又今度ハ首ガ飛ンデシマフ、ソコデ裁判ノ威信ト云フ問題ガ屢、起ッテ來ル、裁判ハ水物デアルト云フコトハ一體此邊ヲ言ッテ居ル、人間ノ首ガ繫ンタリ、飛ンダリスルノデアリマスカラ、斯ウ云フコトハ裁判ノ威信ノ上カラ言ッテモ、ソレカラ上訴ヲ認メタル趣旨ガ、元

來被告人ノ利益ノ爲ニ認メタル、ソレガドウモ極度マデ利益ヲ主張シテ居ルト、却テ元ヘ戻ッテ、一遍利益ノ判決ヲ受ケタモノガ、破毀ニナッテ爲ニ又不利益ノ裁判ヲ受ケルコト云フコトニナッテハ、此四百五條ノ意味ガ私ハ徹底セヌコトニナルト考ヘマス、故ニ私が今申上ゲタ場合ニハ、今日ノ所謂不利益變更ノ原則ニハ關係ガアリマセヌアレドモ、此原則ヲ擴張シテ、今申上ゲタヤウナ場合ニハ、矢張其被告ノ不利益變更ヲスルコトガ出來ヌコトニシタ方ガ、人情ニモ適ルシ、裁判所ノ威信ノ上カラ言ッテモ、適當デアルト思ヒマスガ、其邊ニ付テ多少御議論モアッタラウト私ハ思フデスガ、此邊ノ御意見ヲ伺ヒマス

○林政府委員 只今御尋ノ點ハ、上告ノ章ニ進ムト極メテ明瞭デアリマスガ、此案ニ於キマシテハ、大審院ガ破毀シタ場合ニ於テ、自ラ事實ヲ審理シテ判決ヲスル、斯ウ云フコトニナリマス、今日ヤッテ居リマスヤウナ原裁判所ト同等ノ裁判所ヘ移送スルコトヲ認メヌコトニナリマス、ソレデスカラ今御尋ノヤウナコトハ、此案ニ於キマシテハ、無イコトニナリマス、サウシテ大審院自ラ事實ヲ審理シテ所決ヲスル場合ニ於キマシテ、矢張不利益變更ガ出來ナイト云フコトガ、此四百五十四條ニ明文ヲ設ケテアリマスカラ、サウ云フコトハ無イト思ヒマス

○鶴澤委員長 第四百六條——第四百七條

○宮古委員 一寸御伺ヒシタイノデスガ「控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得」民事ノ判決デアリマス、當事者ノ事實ヲ書キ、提出シタル證據ヲ書クト云フコトデ、一審ノ判決ノ通り引用スルコトハ極メテ容易イ事デアリマスガ、刑事ノ判決デ事實及證據ヲ引用スルコトハドウ云フ風ニ致スノデアリマセウカ、即チ被告人ノ犯罪事實ト云フモノヲ明白ニ書クハ、第一審ノ判決ニ書イテアルカラト云フノデ、ソレヲ略シテシマフト云フノハ、是ハドウ云フコトデアリマスガ「證據ヲ引用スルコトヲ得」ト云フ、此法律ハドウ云フコトニナリマスガ、先刻政府委員ノ御説明ノ通り、三百六十二條デ判決ノ言渡ヲスル際ニ於テハ、證據ニ依ッテ理由ヲ説明シテ行カナケレバナラヌト云フ譯デアリマスガ、其證據ヲ引用スルト云フコトデ理由ヲ説明シタ所デ、唯證據ダケヲ掲載スルト云フノハ、民事ノヤウニ行クマイト思ヒマスガ、是ハドウ云フヤウニ引用スルコトヲ意味スルノデアリマスガ

○林政府委員 四百七條ノ趣意ハ、控訴裁判所ノ判決ト第一審裁判所ノ判決トカ、認定シタ事實及其事實ヲ認メタ證據ガ全然同一ナ場合ニ於テハ、結局控訴裁判所ノ判決ハ第一審判決ニ書イテアル通りト云フ結果ニナルノデスカラ、ソレハ更ニ一々書クノハ、當事者ニ取ッテモ必

要ナキ無益ナル譯デアリマスカラ、サウ云フ場合ニ於テ全然同一デアルナラバ、事實ハ第一審判決ノ通りデアルカラ之ヲ引用ス、又認定シテ證據ガ全然同一デアルナラバ、右ノ事實ヲ認定シテ證據關係ト云フモノハ、第一審判決ニ示シテ通りデアルカラ、之ヲ引用スル、斯ウ云フコトヲ控訴裁判所ノ判決ニ書ケバ宜シイデアリマス

○宮古委員 一寸マダ分リマセヌガ、今林君ノ意見ノ通りニスルト、第二審ノ判決ハ全部省略シテシマウヤウナコトガ出來ル、一審判決ノ通り、斯ウ書ケバ宜イヤウナコトニ聞エマヌガ、サウ云フ御趣意デモナカラウヤウニ思ヒマスガ、事實ハ先ヅ被告人ノ犯罪事實ヲ書クト云フコトダケデ宜シイデスケレドモ、證據ニ依テ理由ノ説明ヲスルト云フ場合ニハ一審ノ判決通りニスル譯ニハ行クマイ、今日ノ判決ノ書キ方ノヤウニ、唯證據ノ内容ダケヲ羅列スルト云フコトダケナラバ、或ハ一審ノ判決ヲ引用スルコトガ出來ルト思ヒマスガ、先刻山岡政府委員ノ説明ニ依レバ、サウ云フ趣意デナク、明白ニ此證據ヲ土臺トシテ、認定シテ理由ヲ書立テルノデアルト云フコトデアリマスガ、サウ云フコトデアルナラバ、ドウモ一審ノ證據ヲ唯其儘引用シテシマウト云フヤウナ譯ニ行クマイト思フデアリマス、今日モ刑事ノ判決ヲ例ニ取ツテ見ルト云フコトハ能クアリマスガ、刑事ノ判決ノ説明ハ、證據ヲ引用スルト云フコトハ當事者雙方ノ主張スル所ノ事實、及擧ゲタル所ノ證據ヲ列擧スレバ宜シイデアルケレドモ、理由ノ方デハサウハ行カナイ、理由デハ一審デ認定メタ所ト假令同ジデアツテモ、矢張理由ノ説明ハ、控訴ナラ控訴デ以テ、明白ニ書カナケレバナラヌ、刑事ノ方デモ、マアソノ風ニシナケレバナラヌモノ、ヤウニ思ヒマスケレドモ、今林政府委員ノ御言葉ノヤウニスレバ、全クサウ云フコトハ出來ナイカノ如ク思ハレマスガ、如何デスカ

○林政府委員 四百七條ノ證據ヲ引用ノ實際ノ適用トシマシテハ、複雑シタル事件ニ於テハ、引用スルコトガ出來ナイコトニナルダラウト考ヘマス、ソレハ複雑シタル事件ニ於テハ、他ノ裁判所ノ認定及證據關係ト違ッテ來ルコトガ通常デアリマス、併ナガラ簡單ナ事件ニ於キマシテハ、事實ノミナラズ、事實ヲ認定シテ證據關係ガ全然同一ト云フコトハ幾ラモアリマス、例ヘバ簡單ナ窃盜事件ニ付テ、被告人ハ此公訴事實ヲ認メテ居ル、被告人ノ何某ハ何時何日斯ウ云フモノヲ盜マレタト云フ證言ヲシテ居ル、ソレ故ニ右ノ事實ハ明白デアルト云フコトヲ説明スレバ、證據ハ十分デアリマスガ、控訴裁判所デ調べテ、矢張ソレト同ジ證據關係デ事實ノ説明ヲスル、斯ウ云フコトニナルデアリマス、サウ云フ時ニ、全然同ジ事ヲ繰返シテ書キマシタ所ガ、被告人ハ同ジナデスカラ、結局第一審判決ニ示シタコトヲ引用シテモ、少シモ結

果ニ於テ違ヒガナイノデアリマス、サウ云フ場合ニ四百七條ノ適用ガ出來ルノデアリマス

○宮古委員 ソレデ林君ノ御説明ヲ承ルト、三百六十三條ノ方ノ區裁判所ノ判決、區裁判所ノ判決デハ、事實證據及法令ヲ示シサヘスレバ宜イト云フ、斯ウ云フ譯デ、別段内容ヲ示スニハ及バヌト云フヤウナコトデアリマシテ、理由證據ニ基イテ説明ヲセヌデモ宜イト云フヤウナコトデアリマスカラシテ、此場合ダケシカ適用ガナイモノデアリマスガ、三百六十二條ノ方ノ判決ノ場合ニハ、適用ハ一部アリマセウガ、全體ガ少クトモ證據ノ引用ニ付テハ、三百六十二條ノ法規ノ適用ガナイ譯デアリマスマイカ

○林政府委員 全然同ジヤウナ關係ニナル場合ニハ、適用ガアルト考ヘマス

○宮古委員 モウ一點、ドウモハッキリ分リマセヌガ、サウスルト矢張林政府委員ノ御意見ハ、第一審ノ理由ト一切違ハヌト云フ場合ニハ、一審判決ノ通りト云フコトサヘ簡單ニ書イテ置ケバ、ソレデ判決ハ足ルト云フコトニナリマスガ

○林政府委員 先程御答シタ通り、全然同ジデアリマスカラバ、第一審判決ニ示シタル通りデアルカラ、之ヲ引用スルト云フコトヲ書キマスレバ、其條文ノ要求ニハ應ズル譯ニナリマス

○鶴澤委員長 第四百八條——第四百九條——第三章上告——第四百十條

○横山委員 甚ダ恐縮デスガ、今日ハ此程度ニシテ戴キタイト思ヒマス、明日早クカラ……

○鶴澤委員長 ソレデハ今日ハ是迄ニ致シテ置キマス、明日ハ正十時カラ……

午後五時二十八分散會

大正十一年三月七日印刷

大正十一年三月八日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局